前號發賣禁止

無産階級戦闘雑誌

第五年 ◆ 七月 ◆ 第七號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

■誌代一ヶ年分拂込者にマルクス大寫眞を無代贈呈す■

■本號一瞥■

□進んで退くなかれ……卷頭言
□時評……同人
□「法律の前の平等」……本莊可宗
□所謂左翼の概念(二)……石川準十郎
□「力」の運動と政治鬪爭……吉田源藏
□親善の裡に潛む罪業の評價……牛窪愛之進
□「進め」記者への御答……福田德三
全土戰報
■青年市長の正體……加藤一郎
■他山の石は珍らしい……宋正壹
■此の犧牲を見よ……久達榮
■不法なる解雇……小田實
■啓蒙語錄……村山銀次郎
■ブルジョアの走狗……產米生
■鐵道省の陰謀……岡地雅孝
■無產者は無產政黨へ……水野貝三郎
■橫暴なブルジョア……倉本晃南
■祝農民黨全滅……河部文作
□『世界史の認識』の誤謬……津田光造
□衡平社第五回大會記……平野小劍
□カール・マルクス(4)……カハン・コーテス
□朝鮮社會運動小史序說……金熙明
□聯隊長謝罪文請求事件……布施辰治
□戲曲 ストライキ(3)……下山利基智
□隨筆 狂人狂語……吉田金重
□講座 伊太利の勞働運動……淺野研眞

備へよ！無產者の糧!!

第二十版
マルクス寫眞集
内容
マルクスの生家、マルクス夫人、マルクスの原稿、マルクスの博士免狀、マルクスの署名、マルクスの旅行免狀、ロンドン亡命中のマルクス、ロンドンに於けるマルクスの住宅、資本論執筆時代のマルクス、晩年のマルクス、マルクスの墓、の十一枚。四六倍版アート紙、印刷鮮明、極めて美麗。
本社編纂 一部五拾錢 送料四錢

第二十版
社會思想家寫眞集
内容
サンシモン、フーリエ、オーエン、プルードン、マルクス、バクーニン、エンゲルス、ウヰルヘルム・リープクネヒト、カール・リープクネヒト、クロポトキン、ラッサール、レーニン、トロツキー、の拾三枚。四六倍版アート紙印刷鮮明、極めて美麗たり、無產階級の永久に記念すべきものである。
本社編纂 一部五拾錢 送料四錢

第拾版
日本勞働運動小史
内容
明治大正を通じての日本に於ける勞働者解放運動の全分野に渉つて、細大洩らさず僅か百三十餘頁の内に收めた手頃なパンフレットである。尙ほ卷末に附せられたる統計、文獻、年表は用意周到な貴重な者だ。苟も日本プロレタリア運動の史的背景を知らんとする者は必ず一本を備ふべきだ！
淺野研眞述 定價五拾錢 送料四錢

再版
生きる權利と儲ける權利
内容
生は權利だ、人間として生を享けた以上は何人と雖生きる權利がある。然るに資本主義は不平等に與へられたる無產階級の權利を剝奪してゐる。本書は不合理なる現制度を解剖して、人間權の奪還を叫び、無產者の進路を示せる絕好の社會主義入門書である、眞理を摑まんとする無產青年は讀め！
吉田源藏著 定價拾錢 送料二錢

再版
農民諸君に與ふ
内容
橫暴側ふるにものなき地主の虐殺的搾取に、憤激置く所を知らざる農民諸君！農村の疲弊、田地の荒廢、青年の離村、而して諸君の經濟的窮迫等々の、所謂農村問題に對し、毅然擡頭せる近代社會思想は何を以つて之を解決せんとするか？農民諸君は起つて、本書の示す社會主義陣營へ來たれ！
神藤伸之介著 定價拾錢 送料二錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

吾等の主張

一、資本主義制度を解剖して大衆を啓蒙す、

一、社會思想を解説して非搾取の社會を建設す、

一、解放團體の分裂を防止して全無産階級の團結を企圖す、

一、社會運動を鞭韃して戰闘精神を振作す、

一、社會運動を攪亂する總ゆるものを討伐す、

第五年・戰闘・進め・雜誌・第七號

進んで退くなかれ

社會運動は新社會に到達するまでは停止するを許さざるなり、則ち勞働組合や農民組合の組織せらるるを以つて甘んずるを許さざるなり、亦幾多の闘士を國會に選出せしむるも樂觀するを許さざるなり、即ち、組合や國會は未だ以て、我等の理想郷にあらざれば也、そは實に、××が機中に眠れるが如きのみ、資本制社會にあつては是等は皆沙上の樓閣に過ぎず、微風來らば忽ち崩壞す實に現社會にあつては、我等の力は微弱なりと謂ふべし。かるが故に、我等は沙上の樓閣を以つて滿足せず、永遠不倒の樂園を建築するまで、不眠不休の努力せざるべからず。

築きては倒れ、倒れては築き、屈せず、新社會建設に向つて努力せざるべからず。是れ我等の經過すべき行路に非らずや。

我等は×××××、倒れては起ち、最後の目標に向つて突進せざるべからず。

斯の如して、始めて我等の理想は達成するなり、××、××、何者ぞ、是れ皆我等を試みるものに非らずや、××、××、何者ぞ、是れ盡く我等を練磨するものに非らずや。

夫れ百練の精鐵、凝つて干將莫耶の名刀となるにあらずや、我等は幾多の困難を豫想して進まざるべからず、進んで擊破せざるべからず、斯の如く我等の闘ひは、幾多の障害を有す、之を進擊して初めて我等の社會は生るる所以なり。

古來、幾多の變革ありしと雖も、そは皆一英雄の野心のみ、未だ以つて人類社會を解放するに足らず、反之、我等の事業は、全人類を解放するの道にして、歷史を通じての大業なり、昔齊の長袖克く爲す所に非らず、街頭の小兒亦之をなす能はず、この困難にして危險なるは謂ふをまたざるなり、かるが故に我等は、惡戰苦闘せざるべからず、大衆と共にこの事業に從はざるべからず、徒らに小異を爭ひ、もつて隊伍を亂るるを許さざるなり。

殊に、階級戰に於ては多數は必ず勝利を克ち獲るを通則とす、故に大衆を離れて戰ひ得るものにあらず、大衆を編成して戰ふこそ我軍に重大なる意義を有するにあらずや、天の利は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず、人の和、戰ひ必ず勝つ。

今や戰ひたけなはならんとす、吾等は皆整列せざるべからず、歩調を整へて進まざるべからず、而して闘志を一にして勝たざるべからず、進め。進め。進んで一歩も退くなかれ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同人時評

田中內閣の反動政策

初めから豫期してゐたが總べての集會を壓迫し、凡ゆる言論機關を封鎖しつゝある田中內閣の反動政策は愈々出で、愈々露骨に行はれてゐる。都市に於ては、組合運動、民衆運動を壓迫し、農村に於ては、土地立入禁止を全國各府縣に命令して、農民組合の破壞を計る等、其の×××××ムツソリニー式反動政治は、時日を經るに從つて、益々具體化されて行く。

最近の如きは、鳥取、奈良の二縣に於ける小作爭議に際し、官憲に拔劒せしめて、農民組合員を威嚇し、爭議を地主側の有利なる條件にて解決せんとしたるが如き、反動內閣の施政方針の如何に××××××を曝露した。

田中反動內閣は斯くて、地主、資本家を擁護し、生產を停滯せしめ、農村をヨリ疲弊せしめんとしてゐる。農村振興とは、地主をして搾取せしめることにあらずして、小作人の生活安定を計ることである。今回の鳥取、奈良の二縣に於ける彼等の意識的暴壓は、斷じて農村の振興を促さゞるのみならず、却つて、小作人の失業、從つて田園の荒廢、延いては食糧の不足、更らに米價の騰貴を促す以外に何もない。

吾々は、田中內閣の出現に依つて、國民の生活不安が、刻々と深まりつゝあるを知る。而して此の後に來たるものは何か。吾が無產階級のみがこれを知り得る。

地主、資本家×××××政友會內閣は、斯くて、其れ自らの代表し、擁護せる階級の墓穴を掘るに急いでゐる。

勞農、日勞の提携如何

去月、日勞黨より、勞農黨に對し、提議した對支非干涉、議會解散請願運動の二問題に關する共同戰線は、勞農黨の不誠意なる拒絕に依つて、遂ひに其れを行ふ事が出來なかつたが、今度は、勞農黨より日勞黨に對し、立入禁止問題に關して共同戰線を申込んだ。所が、日勞黨に於ては去月の失敗に鑑み、其の提案を斷乎として拒んだ。申込んだり、申込まれたり、拒んだり、拒まれたり、兩黨の行ひたるや、誠に兒戲に等しいものがある。

双方共に、共同戰線を張つて、運動を共にしたい意志は充分ある。然し、簡單に承認しては黨の威信に關するとでも思つてか、變に、意地を張り合つてゐる。喧嘩をするなら、勇敢に、徹底的に、妥協するなら、恬淡に、解決すれば、宜いではないか。些々たる感情、片々たる黨派的根性に囚はれず、共同戰線の張れるものなら、共に、步調を合して行けば無產階級運動上の利益や、實に大なるものがある。

無產階級の共同戰線！　何と素晴しい響であることよ！　だが、それは、以上の如き關係に依つて遂に實現すること能はざるか。

張繼來たる

支那國民黨の右傾派を以つて目せらるゝ張繼氏が來た。張繼氏は今春以來國民黨と軍閥の張作霖とを妥協せしめんとして暫く大連にゐた。張氏はかつて社會主義者であつた。それが軍閥の張作霖と結ばんとするが如きを企てた事は國民黨の所志に反する處ではないか。かくの如くして國民黨を右傾化し墮落せしめようとするのである。支那浪人の巨頭、萱野長智氏も隨行して來られた。氏は最近昭和日々新聞に國民黨が社會主義的になつた事を憤慨してゐられるが三民主義の行く處は何處であらうか。資本主義政治に赴くか、無產階級搾取の世界か。孫文氏はすでに三民主義の極致は社會主義社會であると斷言しておつた。茅野氏は三十年前の惠州事件當時の思想で今日の國民黨を指導するに足りない。それは、敢へて茅野氏のみに限つた事ではない。上海には國民黨關係の日本浪人が澤山ゐるが、彼等は革命の爲めに何等の貢獻をも爲し得ないのみか、反つて革命を妨害してゐるのである。彼等は主義なく主張なく、往々にして日本軍閥の手先たらんとする危險性を有してゐる。

今次の、張繼氏及び萱野氏の來朝は戴天仇の來た目的と、同じではなからうか。即ち日本の資本家、軍閥に接近する爲めではなからうか。張繼氏は明治四十年當時の昔に返つて本鄕元町の平民書房上の日本政府の橫暴を罵りし事を考へ見よ。時の日本同志は君が四萬萬の支那民衆を救ふ革命の人たり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し事を信頼した我、期待を裏切つて今日本に来たる昔日の同志、君を迎ふる支那革命に何を以てするや。吾人は君の支那革命を裏切るが如き行為に對して糺弾するものである。

出兵は何を得たるや

田中内閣は、支那に對し、武力的干渉を断行した。そして支那民衆の激怒を買つた。今や支那全土に亙つて排日運動が慢延し、兩國の間には一脈、険悪の空気が漲はれてゐる。日本が出兵するに就いては、當時、ブルジョア政府から所謂出兵聲明書なるものが公表された。それに依ると、日本租界にある邦人の生命、財産を保護する目的を以て出兵するとある。

然しながら、此の聲明は明かに×××××、××××。彼のブルジョア政府は、名を邦人擁護に藉りて、××××××××、××××××××××、××××××××。

日本政府は、今回の對支出兵に依つて、果して何を得たか。それは、支那民衆の激怒と、軍費を浪費した以外の何物をも得なかつた。

支配階級の武力的干渉は、無産階級の××××××××ものである。支那の××××××××なかれ！

列國の支那に對する干渉は支那民族を××××ものである。況んや武力的干渉に於てをや。

金融資本の聚積

末期に於ける帝國主義國家の資本は、ヨリ小さき範囲へと緊縮されつゝある。各地小銀行の休業、延いては小資本家の没落、夫れである。斯くて金融資本の寡頭化は、資本主義の滅亡に近付けば、近付く程、其の[illegible]化されて行く。

大資本家たらんことを歩みてゐた小資本家は、没落の外なき現實に直面して、轉た、資本主義國家の矛盾性を咲するであらう。

資本の聚積！ 資本家的一大トラストの具現！ 斯くて資本と勞働の階級的境界線は愈々鮮明に刻されつゝある。

反動主義者の蠢動

田中反動内閣生まれて、反動主義も甦つたやうである。最近彼等は、組合運動、政黨運動の妨害を試みやうとして焦つてゐるが、理論の無き、且つ行動の伴はざる者の蠢動が、此の破竹的進展を以て資本の牙城へ躍進しつゝある無産階級の前には鎧袖一觸にも値しない。

澁谷なる陸軍少将は、吹いて曰く、「……我國は青訓生と軍隊とを合して約五百萬人ある。此の五百萬人が一致協力せば共産主義も断じて恐るゝに足らん……」と。

反動主義者の此の言や、正に砂上の楼閣に安逸を貪ぼるブルジョアのタワ言として、代表的なものたるを失はない。恐るべきは、共産主義にあらずして、青訓生、軍隊そのものである。彼等と雖、既に××××××××××××××××、××××××××××、××××××、××××、××××××。

理論なきものは遂に亡びざるを得ない。これは古来、不變の眞理である。理論なき反動主義者の蠢動は、單たるブルジョアの走狗としての役割を演ずるのみであつて、断じて無産階級運動の前に、立つことを許されざるものである。

軍閥の使者 民衆黨幹部

總同盟の幹部等が、一部の者、軍閥の傭兵と化し、其の手先となつて、社會運動を堕落せしめたる事實は、若等の調査に依つて明かになつたが、これは或る時は進退を表しないが、最近、社會民衆黨の宮崎龍介、松岡駒吉等は、軍閥の指命に依つて北伐軍南京政府に使した。

表面は兩國!!日支無産階級の結合だと稱してゐるけれども實は、軍閥が蔣介石一派を軟化し、堕落せしめんとする意圖を奉じて南京に赴むいたのである。軍閥が直接、其の郎黨を派遣しては南方政府は、相手とならない。依つて無産階級を詐稱せる彼等を派遣したのである。此れに臨んで使した宮崎松岡は軍閥の前に跪づき、日本の無産階級を賣つたものと言はねばならない。

社會民衆黨も總同盟も、此の堕落幹部を放逐しなくてはならない。

人口増加

最近、一昨年の十二月に於ける人口調査の結果が發表された。それに依れば、年々九十萬人の増加を示しつゝある。

さなきだに失業者の大群を街頭に投げ出しつゝある日本にして、斯くの如き多數の人口を年々増加せしめてゐては其の結果や、誠に恐るべきものがある。現在の失業者をすら、解決するの方法を講ぜざるブルジョア××××日本政府は此れを如何にせんとするか。

人口問題に對し、何等の對策をも講ずる所なき支配階級は、産児制限を倡導、[illegible]に取締りつゝある。其の矛盾を今[illegible]の甚だしき、誠に嗤ふべきものがある。

生めよ、殖やせよ、とは今日ブルジョアの常に、明言してゐる言葉である。然らば、殖へた結果を如何にするか。彼等は此れに對して答ふべき、何等の言葉をも持合せてゐない。

人口を殖やしさへすれば宜いやうに考へてゐる彼等の、原因を無視して、結果を[illegible]らざる偏狭なる政策は、遂に打破されなければならぬ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「法律の前の平等」

本莊可宗

一

法律は、羅馬法以來、つねに、支配階級の自己擁護の用具となつた。そして合法的に支配階級が、被支配階級を搾取する爲めに、形式的に『平等』といふ體裁を以て、條文を構成していつた。併し內容的には、（卽ち經濟的には）反つて不平等を擁護する蔽布となつた。

財產を持てる者と、財產を持たざる者と、形式的に平等であることは、やがて內容的には（所有權の保護を中軸として動いてゐる法律治下にあつては）有產者に權利が、無產者に無權利が、伴ふことになる。「個人の自由」といふ十八世紀以來の主導觀念が――不幸にも「自由」の觀念が「財產」と結びついたが故に（十九世紀民法の特質である財物偏重主義が流れて來たからである）そこでは人格權は財產無き者には認められなかつた。英米の判決法に於て見ても人格權は主として財產權の名の下に、間接に保護されてゐたに過ぎない。

個人の自由が私有財產權の保護と結びついて出來上がつたものが、個人所有權不可侵の原則であり、契約自由の原則となつた。そして「自由」の名の下に、所有權保護、契約自由の保護の美名の下に、無產階級はいかに不當の不利益と、不合理な生活狀態との下に、壓搾せられたか！ これは謂ふまでもない。

「所有權」を保護したもとのいはれには相當の根據はあつた。それは、所有と使用とが未だ分離してゐないときには、財物の所有を保護することは、總てその使用を保護することであつて、それは社會的にも、その利用能率をあげることになつた。然し今日のやうに使用と所有とが分離してゐるときには所有を保護することは總て、その利用能率を下げることになつて來た。今日では土地の所有者は、地主であるが使用者は小作人である。家屋の所有者は家主であるが使用者は借家人である。機械の所有者は株主であるが使用者は職工である。斯うした場合に、使用者の權利を擁護することを原則とする方が、謂ふまでもなく、その利用能率を社會的にもあげる所以である。

二

ブルジョア的生產關係の下に於ける賃銀制度的生產方法の場合には、事情は少しく封建時代の隸農とは異るけれども、矢張り「生を斷念せざる限り」貨幣を有つてゐない勞働者は、身を資本家に賣らざるを得ない。ただ貨幣經濟の發達の結果、無產者がその「身體」と引き離して、その「勞力」のみを賣ることの可能な點だけである。

封建制度の社會にあつては小數の領主が、凡ど唯一の生產手段たる「土地」を獨占し、從て社會の大多數を構成する農民はこの「土地」から離緣されてゐた。從つて農民は、（封建時代のやうな社會の自然經濟的段階では）自己の「勞力」をばその「身體」と離して賣ることは不可能であつた。農民はその「勞力」と共に「勞力」の主體であるところの「身體」をも、從つて人格的自由をも、賣らなければ生きてゆけなかつた。彼等は領主に對して農奴であることによつて生きて行つた。――この事は、生產手段が「土地」から「資本」に變つた今日に於ても猶ほ同樣である。資本の所有者に對して、所有せざる者が、支配を受け、一種の奴隸として生活する形は同じである。たゞ「勞力」を「身體」から引き離してたゞ勞力だけを賣ることが可能となつただけである。それは生產手段が「土地」から「資本」といふ動產的なものに進化したのと階調してゐる限りであつて、生殺與奪の權が（雇傭關係といふ形からして）資本家の手にある以上、今日の勞働者は一種の隸農狀態にあるのである。

こゝで支配階級は、大多數の人間を隸農狀態にあることを露骨に意識させては不便なので、「支配關係」を合法的に、形式的に「個人の自由」の名の下に、安置しなくてはならなくなつた。彼等は無產階級に對して「法律の前の平等」といふ美名を與へたのである。

暴力取締法といふ美名を見よ。誰でも暴力で强迫されては困るから一見甚だ有難いやうに聞える。併し考へてみるが宜い。今日、×××××××××××××××××××得ない階級は孰つちであるか？ 一切の合法的行動を閉塞されて了つてゐる階級は孰れであるか。してみればこの一個の美名（安寧維持の美名の下に施行されてゐる法律は、實は×××××××××××××しか過ぎないのである。無產階級はかく美名の下に×××××。政府が提案の當初の口吻によれば、寧ろ反動派の暴行を取締る爲めであるといふやうな調子であつたが、實際の施行では御承知の通りの有樣である。

のみならず、有產階級と無產階級――有てる者と有たざる者とが「富」を以て×××××××××××××である。何故なれば之れは一方が有てる者であり、他方は有たざるものだからである。一方は×××××××××××。他方は之れを有たざる場合、この對立は、××××××××。しかしこの對立は法律の前の平等によつて是認されてゐる。法律は×××××××××名の下に是認し乍ら、××××××之を否認するのである。（五、七）

所謂左翼の概念（二）

――正教マルキシズム――

石川準十郎

一

彼等復歸コンムユニスト卽ち所謂『眞正マルキシスト』（何んとこれは光榮な言葉であらう！）がマルキシズムの初期の名稱コンムユニズムに復歸せねばならないと稱する所以のものは全く國家論の上に、從つて××××論の上にあつた。

彼等のお祖師樣たるレーニンに依れば、從つて彼等に依れば、國家なるものは本來階級搾取機關乃至階級支配機關に過ぎないものであつて（因に此處に言ふ『階級』とはマルキシズムで言ふ階級であつて、近代に於てはブルジョア階級とプロレタリア階級との二つを意味するものに他ならない）、社會主義を達成せんが爲には必らず×××××××××××××××××××××××××××××××××××××××。（因に、此處に言ふプロレタリアの獨裁とは、プロレタリア獨裁の名に依る少數コンムユニストの專制政治を意味する。何故ならば彼等の言ふ所のプロレタリア獨裁とは、議會に依る多數決政治の反對であつて、社會の多數者たる無產者の議決意志に依る多數無產者の獨裁ならば、議會政治に依つても行はれ得るからである。但し、どちらが便利かは別問題である。）而して實にマルクス、エンゲルスの本來の說は、斯くの如きものであつた。然るにカウツキー一派卽ち社會民主主義はこの點を甚だ曖昧にして居る。凡ての惰落、凡ての骨拔き乃至日和見は此處に基因する。我々は須らく本來の眞正のマルキシズムに復歸しなければならない。――と云ふのである。

その後、雨後の竹の子の如く簇出された第三インタナショナルの一種の御用學者連は、このレーニンの『マルキシズムの國家論の復興』に對して、同じ意味で更に『マルキシズムの哲學論の復興』（從つて唯物辯證法の復興）を付け加へた。彼等に依れば、第二インタナショナルの所謂『正統マルキシスト』（それ迄は第二インタナショナルのマルキシスト達が正統マルキシストと云ふことになつて居たのである）共はマルキシズムの哲學論に對して、從つて唯物辯證法に對して否定はしないが一種の『ボイコット乃至サボタージをして來た』。凡ての惰落、骨拔き日和見は此處に基因して居る。我々は須らくレーニンの『マルキシズムの國家論の復興』と同じ意味に於てこれを『復興』しなければならない、と云ふ譯なのである。この『マルキシズムの哲學論の復興』も又、レーニンに、更に遡つてはプレハノフに、源を引いて居るものであるが、こう云ふ形態で呈出されるに至つたのは全くこの竹の子マルキシスト連（デボーリン、コルシュ等）の勳功に屬するものである。然し唯物辯證法は所謂社會民主主義の理論的代表者たるカウツキーも、ベルンシタインとの論爭に於て、固執した所であつて、別に『復興』にもなるまい。尙私はこの問題に就ては遠からず批判的論攻を物して問ふ所ありたいと考へて居る。

右の國家論が科學的に正しいものであるか否か、そこには尙論證の不足が無いか否か、は此處には全く別問題である。それは別個の攻究に屬する所のものである。此處に問題たるは、本來のマルキシズム卽ちマルクス＝エンゲルスそのものから言つて、果して社會主義の達成は××××××××××××××××ならないものであるか否かである。果して彼等の稱するが如きものであつたらうか？

マルクス及びエンゲルスは明白に、デモクラシーの發達した國に於ては議會方法卽ち所謂平和的方法に依つても目的を達成し得ることを言つて居る卽ちマルクスは、アムステルダムに於ける演說中に言つて曰く『勞働者は勞働の新たなる組織を樹立するために、何時かは政權を掌握しなければならない。然し我々は、この目的を達する爲の經路は到る所同一であると主張するものではない。我々は、種々なる地方の制度や、慣習や、慣例やを顧慮しなければならないと云ふことを知つて居る。そして我々は、米國や英國の如き國々では――若し私がこの國（オランダ）における制度をもつと善く知つて居たならば、私は多分それに和蘭を附け加へるであらう――勞働者が平和的の經路で彼等の目的を達し得ると云ふことを否認するものではない。然し、一切の國々で皆さうだと云ふ譯ではない。』と（マルクスの一八七二年アムステルダムに於ける演說）。又エンゲルスは『フランス階級鬪爭』の序文に言つて曰く『當時（一八四八年頃）の事情の下にあつては、（ブルジョアとプロレタリアとの間に）大決戰が勃發するだらうと云ふこと、それは長い且變化の多い一個の革命期に亙つて決戰されねばならないと云ふこと、然しそれはプロレタリアの窮極の勝利を以つて局を結ぶの外はないと云ふことに就て、何等の疑惑をも持たなかつた。』『然し歷史は我々が矢張り間違つて居たことを證明し、當時の我々の見解が一個の幻想であつたことを暴露した。歷史は尙遙かに進行した。それは啻に我々の誤謬を粉碎したのみならず、又、無產者がその下に鬪ふべき諸條件を全然變革して了つた。一八四八年代の鬪爭方法は、今日、有らゆる關係に於て陳腐に歸した。そしてそれはこの機會に於てもつと嚴に討究される價値ある點である。』『かくて鬪爭の條件が、本質的に變つて來た。舊

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

式の叛逆、防塞に依る市街戦は、明らかに陳腐に帰した。『奇襲の時代、無意識なる大衆の先頭に立てる僅かなる小数者に依つて果さるべき革命の時代は既に過ぎ去つて了つた。過去五十年の歴史はそれを我々に教へた。』『世界史のアイロニーは一切を顛倒した。革命家破壊者たる我々は、不法的の手段に依る顛覆に依るよりも、合法的手段に依つて遙かによりよく成長する。』と（マルクス著『フランスに於ける階級闘争』にマルクスの死後に附したるエンゲルスの序文）●

別に我々は、どちらかのどちらであれば宜いと云ふ訳ではない。マルクス＝エンゲルスが何んと言はうと、××××××××けれぱならない所乃至時にあつては×××××××××のことである。それと共に平和的に行き得る所乃至時にあつては、マルクス＝エンゲルスが何んと言はうと、平和的に行つて何も差し支へあるまい。マルクス＝エンゲルスを高座の上のお祖師様化し、このお祖師様にあやかることを以つて職業として居る所の手合——お念佛マルキシスト共——にとつては、マルクス＝エンゲルスの一言一句は彼等の生存に、少くも其地位に直接關することであらうが、マルクス＝エンゲルスを以つて單にこれ迄に於ける最も勝れたる、而してその限りに於て傾聴すべき社會主義者としか心得て居ない我々にとつては、而してマルクス＝エンゲルスよりも現實の無産階級が大切である我々にとつては、それは大したことではないのである。

さもあらばあれ、マルキシズムから言つてレーニンの云ふことが、従つて復帰コンムユニズムが、唯一真に正しいものであると云ふことを我々に納得せしめんが爲には、上述のマルクス＝エンゲルスの言葉を何處かに永遠に消し飛ばして呉れなければならない。然らざる限りに於ては、レーニズム即ち復帰コンムユニズムは、斷じて唯一無二の正統マルキシズムではあり得ないのである。而して復帰コンムユニズムはこの斷じて唯一無二の正統マルキシズムではない所のものを唯一無二の眞正統マルキシズムとして主張し信奉するのである。

私が今日の所謂共産主義（復帰コンムユニズム）を以つて敢へて正教マルキシズムと稱する所以の第一は、即ち此處にある。

二

私が今日の共産主義を以つて正教マルキシズムとなす第二の所以は、彼等の宗教的正教的態度に在る。由來社會主義的精神は批判的精神であつた。且批判的精神でなければならない。それは無産階級的實在が、人類の社會的實在が、要求する所の第一次的必要である。而してマルクス＝エンゲルスの即する所も、先づ第一次的には此處にあつた。然るに今や彼等の亞流にとつては、マルクス＝エンゲルスの所説は神聖犯す可からざる存在となつて居るのである。それを疑ふことは實に『ブルジョア的』若しくは『反動的な考へ方』であり、許す可からざるものなのである。彼等にとつてはマルキシズムに、『絶對眞理』であり、『完結眞理』なのである。彼等にとつては事實よりもお祖師様のお筆先が先なのである。事實はそれに依つて解釋され、規定されなければならない。斯う云ふ考へ方乃至見方が、本末相顛倒せる眞理を主張する所の、而して際に所謂『觀念的』見方を排する所の、マルキシズムとどう云ふ關係になるかは、彼等の關しない所である。斯くて彼等は、全く、宗教上の正教的態度に、陥つて居るのである。この態度は末流に至れば至る程甚しくなつて行く。本來の社會主義的批判的精神は何處かに消え失せて、獨善的な正教的態度のみが發達して行く。而して私が今日の所謂共産主義を以つて正教マルキシズムとなする所以の二は、この態度に在るのである。

三

之を要するに今日の所謂共産主義なるものは、以上の如き意味に於て實に一つの正教マルキシズムたるに過ぎないのである。それは、以前の社會民主主義が『正統マルキシズム』であつた程度に於て、或はそれ以下に於て『眞正マルキシズム』なのである。而して兩者共にその『正統』『眞正』を後生大事にして爭ふ限りに於て、共に一種の『正教主義』なのである。

而して日本の共産主義運動なるものは、この正教マルキシズムを更に『正統マルキシズム』乃至『眞正マルキシズム』として附け加へて主張し信奉するものなのである。この意味に於て彼等は全く亞流の亞流たるのである。

最近又彼等が『マルキシズムの哲學』の復興』を唱ふ所謂『戰鬪的唯物辯證法』を輸入したに際しても同様のことが行はれた。何等思想に先づ、正統マルキシズムの闡述者たらんことを以つて汲々として居る所の河上肇博士——所謂支配階級官立大學の禄を食み、奏任官何等何級かの支配階級位階に位する所の——が、寧もあらうに『修正主義者』として、洋行歸りの、ブルジョアーモダン・ボーイの成り損ひ辯證法主義者の一派に依つて攻撃された。次いで共産主義の最大の指導者として自他共に許して居た山川均氏が『折衷主義者』として攻撃された。斯くて彼等は先づ結局仲間喧嘩を初めた。斯くしてマルキシズムは彼等に依つて如何に非科學化され宗教化されて行きつゝあるか。

以上は單に、今日の所謂左翼即ち共産主義者の概念を規定し敍述したものに過ぎない。それは——最後に再び總括して言ふならば——要するに、先づ第一に正教マルキシズムを信奉するものであり、第二にロシヤ國家の援助を受けて居るものである。而してこれが科學的正否、無産階級的善悪の批判に就て、尚後の責務とする所である。

（昭和二年五月七日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「力」の運動と政治鬪爭

吉田源藏

『政治は力だ』とあるブルジョアー政治家の言つた事を吾等は覺へて居る。そうだ、確かに力である。だから無産階級の政治運動も力の運動であらねばならぬ。マルクスの哲學が唯物史觀の上に打ち立てられて、生産力の發達に從つて、必然的に×××××××××、時間的に片付けて居ながら、彼は一方に於て階級鬪爭を高調して居る。これは彼の修正派社會主義者のベルンシュタインが批難したような自己欺瞞でもよければ、自殺説でもなく、大なる矛盾でも何でもない。

マルクスが、社會進化の法則を、歴史の發展による必要的な因果關係であるとしたのは、所謂社會主義の觀念から『斯くある可きもの』と見たからである。

事實封建制度も、資本主義制度も、『斯くある可きもの』であつたのである。ところがマルクスは、現實に直面して、『現にあるもの』の中に『ある可きもの』がない事を見たのだ。即ち當然起る可き社會の推移が、或る力に依つて抑制せられて居るのである。マルクスは此の必然的な行程が、人爲的に阻止せられて居る事を見て、『現にあるもの』を『斯くある可きもの』と代へる爲めに力の必要を説いたのである。此の『力の必要』×××××××××××である。だから萬國の勞働者團結せねばならぬのである。

そこで吾々は、此の必然的な行程を阻止して居るものゝ何であるかを見るときに……今時こんな事を云へば古臭いかも知れぬが……それはブルジョアー政治勢力である。彼の萬國勞働條約を蹂躙せんとして、東京驛頭で血祭に上げられた、ブルジョアー政治家の言つた『力』である。此の力が當然に進む可き社會の進化を邪魔して居る限りに於ては、正しき社會進化を希ふ、吾々プロレタリアーは、其の所謂『力』を鬪ひ取らねばならない。これを鬪ひ取るには、××××××『×』××××××××ならぬ。マルクスは言つた、『總ての階級鬪爭は政治鬪爭だ』と。

そこで無産階級運動は政治運動を他所にしては何ものも掴み得ない譯である。然しながら吾々が考へなければならぬことがある。それは、無産階級政治運動は『力』である運動であつて敵の力を鬪ひ取る鬪爭であることである。

此處に考へ及ぶに當つて吾々プロレタリアーが、痛切に感ずるのは、現在行動せられつゝある無産階級政治運動が、現に『あるもの』を××××、マルクスの考へた『斯くある可きもの』にしようとする運動……言ひ換へると眞の社會進化を希ふ、ものゝ力で、其の社會進化を妨害して居る『力』を鬪ひ取る可き運動であるか否かと云ふことである。

曰く『小作料の合理化』、曰く『[illegible]』曰く、『既成政黨打破』、曰く、『我等は日本人なり』等々と何とか言つて居るんだ。そんな事ならブルジョアー政黨の方が本家である。何も殊更に無産政黨の看板を掲げなくとも、革新倶樂部か政友會に這入つた方が便利である。そして、[illegible]のある事も確である。但し所謂合法手段のみに於てゞある。私はプロレタリアー政治運動の一部局として、議會に議員を送る事を全く無用とは決して考へて居ない。然しそれが吾等の政治行動の大部分或は全部であるとは思はない。何故なれば、それは『鬪ひ取る』力の爭ひではないからだ。

ブルジョアーは無産階級の政治運動が、合法的である事を歡迎する。彼等は社會進化の[illegible]を妨げて居る『力』を取らるゝの[illegible]がないからである。即ち無産階級の政治運動が、合法的なる事は、それは鬪爭にあらずして妥協であり、苟合であるからだ。妥協であり、苟合である限り、彼等の政治的根底は貧乏揺ぎもしないのである。寧ろ勞働立法、小作立法はより多き搾取の條件となり、より巧妙なる搾取より婉曲に、より人道的に、より文明的に搾取の自由を確保するものである。

櫛田民藏氏によれば、『無産階級政治運動も、最初からはあまり多くの議員は議會に送り得ない。だから少數の議員で出來得る仕事をする。即ちキヤスチングボートを以つて吾等に有利な立法をする』と。然しながら彼等が、吾等の渇に一滴の水を齊さらむのは、憖ては生命を代償とせん事を見越しての後であらねばならぬ。吾等は議會の門戸を開放せられた事に依つて、××××××××××××『×』×××××放棄してはならぬ。現下の無産階級政治運動は少くとも普選なるものに眩惑して、××『×』××××××××××××傾向が顯はれる。無産政黨が未組織無産階級を組織する事は急務であつて、而かもそれが困難であつても、それが爲めに殊更に、無産階級政治運動の戰鬪的要素を取り去る事は斷じて許す可からざる事である。無産階級の政治運動はブルジョアー政治の革新ではない。既成政黨の打破ではない。況んや××××××××××××××が無産階級政治運動だ等と考へる事は其の迷妄や沙汰の限りである。

無産階級の政治運動は××××××××××××××××、×××××××

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

××××××××××。無產階級の政治運動は、ブルジョアー政治勢力を驅逐する、所謂吾等の最後の日標×××××××××××××××××××。××××××××××××××、××××××××××××××。隨つて吾等の代表が、議會の門を潛つても無產階級政治運動が、×××××××××、××××××××××××××××××。それは先きにも述べた通り、合法的行爲の立法は、より多き搾取への保證であつて、吾等の最後の目的地を、より遠く、引き離す事であるからだ。

ところで吾々が此處に注意を要することは、眞に無產階級運動としての政治運動より、所謂合法的運動なる政治行動が跋扈してゐる事である。そうして此の現象が、單に日和見や、洞ケ峠と貶す可きものでなく、眞の無產階級を解放す可き政治運動だと確信して居るのである。でそれだけに、又それが可成跋扈して居るだけに危險なのである。

それはこれ等の政治運動が結局失敗に終るから危險なのではなくて彼等が合法的な政治運動が無產階級解放の唯一つの方法であると信じて居る爲めにそれが失敗に終つたとき、彼等は無產階級の政治運動は無益にして、有害なものであると、彼のチャーチストが感じたような政治運動有害を唱へるに至りはせぬだらうかと云ふ事である。

若しも政治運動が此のように、否定せられるなればそれは大變である。それは過去に於て吾等が經驗した、無產階級政治運動の當否の爭ひ位ではないからである。兎にも角にも一度び政治運動なるものを經驗してからであるから非常な危險性が伴ふ事となる。×××××、××××××××××××××政治運動を、如斯錯誤から之を否定するような事があつてはそれこそ大變である。

過去に於て多くの先輩は、政治運動に伴ふとこの危險性に付き屢々警告を發せられた。それは多くはブルジョアー政治との妥協に墮ちる事の危險に就いてゞあつた。

然しながら吾等は、無產階級政治運動の、稍白熱化して來た今日、新に政治運動に就いての危險を痛切に感じて來た。

即ち、政治運動を一度び、肯定したるもの自身が之を否定するときの來ることである。

親善の裡に潛む罪業の評價

牛窪愛之進

『支那は世界の癌腫である』と云ふ聲は洋の東西を問はず輿論となつて流行して居る。この輿論の流行をさらずしては世界の大勢を論ずる價値なしなぞと滔々たる愚論、囂々たる俗論が全世界の民衆を虛僞の煙幕を以つて被ひつつ壓倒して居る。

眞に夫れは單なる流行である。銀座街頭に輕薄極る醜態を曝すモダン・ガールの夫れに等しき意義なき誤まられたる時代の一片影である。

然れど支那は久しきに渉り、愛國を口にし治民安國を絶叫しつゝ、賣國を行ふ軍閥、官僚や合棼汁をも喫する×××××××××××××污染せられ、支那の樞機を握ると稱する列强外交官によつて僞報せられ、其眞諦を知ると號する支那通に依つて誤られ、永遠に怪異と謎の範圍を脫し得られざる境地に彷徨しつゝある。火の無き處に煙の揚らざるの例がこれ一般の支那觀所謂輿論の世に出でし處の眞因である。

余素より弱冠の一措大にして、支那に接し支那を研究するの日尙淺しと雖も、眞の民族社會の眞相を究むるの慨を以つて終始し、常に民族の歷史的展廻を基調としてあく迄檢討のフェアならん事を期する年あり。徒に珍僞の形而に論據を起し現に友邦民族を汚瀆しつゝ社會を橫行する資本走狗の狼人輩徒が唱ふる俗說の如く奇嬌の文技を弄せんとするに非ず。

實に徵驗し空想を表し詭辯を駁し僞飾を剝脫することによつて支那を誣し民衆を惑し世界を惑する資本主義强流に對し、正義の彈案を下して解放運動の旗下に向ぜんとするものである。

何を以て支那を極東の癌也と爲すや何を指して支那を世界の癌也と爲すか。

かく彼等の唱ふる處、評價する處こそ恐く癌であり、癌の因子である。

余をして說かしむれば現時の支那は寧ろ全世界資本主義×××××××××强ひてこの點を以つて癌也と爲せばそは世界資本主義の體軀のみを蝕む猛烈なる癌の因子であらふ。

彼等の癌の因子群—列國資本侵略主義及其傀儡の內尤も罪業の深きは日、英、米の帝國主義的資本侵略國及其一味である。

敢て母國日本××××××××××。×××××××××××××××××××。××××××××××××××××××。

余は×××××××××××××××××××稍發しそうして糺彈する世界は自省と大觀の世紀にある。

吾々日本民衆は特にこれを自覺せねばならぬ。虛言を以つて僞飾し、泥彩

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を以つて正[illegible]を[illegible]し、[illegible]を装して侵略た行はれた時代には過去の×××××[illegible]的幻想時代であつた。血に興奮する歴史の[illegible]的に情熱の日本[illegible]、正[illegible]觀念に一つの過ぎプライド』などと誤れる[illegible]去を追想し、未來を想起し、ブルヂョア文明に耽溺する事に依つて人生文化の極致にあるたぞ輕薄なる享樂にひたるを止めよ。

今や世界に新しく[illegible]始めた地球の大自然に[illegible]人類は[illegible]成るのに[illegible]史に[illegible]は宇宙の偉大なる[illegible]人類の時代に[illegible]日本人であるを省みしければならぬ。吾等は[illegible]、吾等の前に[illegible]なる日本人の本領を究め而して果す可く務めねばならぬ。

それは民族、種族を[illegible]し、民族と云ふが如き[illegible]、々の独裁に[illegible]する[illegible]。氏族、[illegible]に[illegible]にて[illegible]、社會の[illegible]を成せし[illegible]親[illegible]の[illegible]に依つて人類の[illegible]を[illegible]して[illegible]である。[illegible]の本性に從ふのである。[illegible]と云ふ[illegible]より[illegible]に[illegible]民衆の[illegible]する[illegible]の[illegible]であり、[illegible]である。

××××××××××××××××××

××××××××××××××××××

××××××××××××××××××。

誰か美しき生活を[illegible]ざる者があらう。誰か平和の[illegible]を[illegible]しまさるものあらう。[illegible]の[illegible]、[illegible]天地と[illegible]し[illegible]鐵の[illegible]を[illegible]たき成[illegible]の天地と、靜[illegible]

にすむる大自然にひたり、明るき天地に[illegible]の一滴にも[illegible]しき風情を忍び得る境地との比較、それはもとより問ふに要なき[illegible]の對比である。

東洋文明史上を[illegible]と[illegible]に探る支那の詩文と詩境、文化と思想、想起す

財を失ひ、自由の天地に[illegible]を切らんと[illegible]しくも[illegible]ふ兒童に[illegible]しき[illegible]の文明が作りなせし砲火の[illegible]に[illegible]群の如く[illegible]に[illegible]す[illegible]抵抗、自殺にして抵抗は[illegible]殺、[illegible]に正義の[illegible]なく、明[illegible]に民の[illegible]なく、[illegible]土は日に[illegible]廢し

爲政者に宣言す

今や無産階級の頭上に對する支配階級××××日に月に募りつゝある。見よ、今に聞こへし世界唯一の暴法治安維持法は勿論、小作爭議調停法、勞働爭議調停法、暴力取締法、出版法、等々々々。如何に我民の自由平等を[illegible]らんとする此の主張、法律や×××社會主義を抹殺する事は出來ぬのだ。吾が無産階級の×××××××、××××××放運動は依然として眞理であり正義である。若し夫れ惡法を××××××プロレタリア解放運動の撲滅を期し得らるゝならば、保守[illegible]の活躍安んじ政の大獄、××××××××××より、徳川幕府、封建制度は依然昭和の現代迄も榮へてゐる筈ではなかつた。

洋の東西歴史を繙く時そこに多の貴き××××××見出し得るではないか、暴虐極りなき佛蘭西貴族階級の專政治下に彈壓されたる民衆の憤怒は遂に爆發して彼の大革命となり、又、西暦一八八一年露國皇帝アレキサンダー二世を以て事とせし×××××××××、[illegible]い[illegible]政[illegible]暴虐[illegible]路西亞帝國は、現時世界に[illegible]より[illegible]たりし、[illegible]して、遂に世界に[illegible]の[illegible]となり[illegible]露國無產階級の勝利に赤文の[illegible]を吐かしめたではないか。是れを見、彼を見ても何××××××

×××××××××××××××

×××××××××××××××

××××××××。屢々起るストライキ、頻々たるサボタージュ、怠業早に[illegible]×××××××××××××

×××××××××××××××

×××××××××××××××

××××××××するものぞ。

×××××××××××、[illegible]に、或は[illegible]、或は××××、或は[illegible]の治安維持法の[illegible]に、或は××××の名の下に、或は××××××××××、或は牢獄にその×××××××××××××××××××××××××××××××××××××ある×××××××××××××。のみだ

（小松 尙榮）

るだに恐しくも又怪しき限りであつた。誰か彼の詩に思ひを思ふものありし。誰か、孔明の出師の表に人間愛の拍子を感じて[illegible]念するもの[illegible]ふ。さあれ志を新にして現在の支那の諸象を見んか、無辜の民は戰火に[illegible]

行く許りである。邦土の[illegible]は從つて國威の衰微、國家の[illegible]を招來するや[illegible]をまた[illegible]、一[illegible]社會に民族、國家ありとする以上夫れが×××××、×××何れを失するもそは之に附隨す。否、之が組織を

爲す民族、種族の破壞、放浪、被支配に及ぶは何人も[illegible]し得るの事なり支那は既に[illegible]の[illegible]（滿洲問題）を[illegible]として一事件、一[illegible]の現要なる[illegible]に[illegible]次[illegible]して[illegible]、革命の現失し、然して遂に[illegible]と[illegible]の[illegible]とを[illegible]はなつたのである。

支那は[illegible]の[illegible]名[illegible]の[illegible]なく[illegible]すれば全く支那の[illegible]に[illegible]は、民族と云ふ[illegible]は[illegible]に[illegible]する社會の[illegible]のに[illegible]も[illegible]す[illegible]に成る一個の[illegible]の[illegible]も[illegible]、[illegible]する。[illegible]の[illegible]×××××××××の[illegible]たるは明に民族と云ふ人類を對手に宣戰するものにして××××××××××××××××××××××××××××××××××。

指摘することは[illegible]的に列國の[illegible]を[illegible]ずるは[illegible]もあるも[illegible]く支那の[illegible]の民衆にある事に民族の存在を否定し[illegible]の民衆にあるも支那の[illegible]も[illegible]族の[illegible]に民族の存在を[illegible]とするのみにして今や各自人類とされんとしてある生存權を[illegible]かされて故

つゝあり生存の[illegible]は[illegible]に[illegible]、これは決して明に[illegible]支那に作成せる[illegible]の物の[illegible]ずる。[illegible]に[illegible]な[illegible]る[illegible]の[illegible]を[illegible]可し[illegible]に[illegible]一生存權の[illegible]を[illegible]支那の[illegible]に[illegible]たンを以つて向後の[illegible]ふスローガる事を[illegible]ふ。

××××××××××。無産階級の政治運動は、ブルジョアー政治勢力を驅逐する、所謂吾等の最後の目標×××××××××××××××××××。×××××××××××××××××××××××××××××××××、××××××××××××××。隨つて吾等の代表が、議會の門を潜つても無産階級政治運動が、×××××××、×××××××××××××××××××××。それは先きにも述べた通り、合法的行爲の立法は、より多き搾取への保證であつて、吾等の最後の目的地を、より遠く、引き離す事であるからだ。

ところで吾々が此處に注意を要することは、眞に無産階級運動としての政治運動より、所謂合法的運動なる政治行動が跋扈してゐる事である。そうして此の現象が、單に日和見や、洞ケ峠と貶す可きものでなく、眞の無産階級を解放す可き政治運動だと確信して居るのである。でそれだけに、又それが可成跋扈して居るだけに危險なのである。

それはこれ等の政治運動が結局失敗に終るから危險なのではなくて彼等が合法的な政治運動が無産階級解放の唯一つの方法であると信じて居る爲めにそれが失敗に終つたとき、彼等は無産階級の政治運動は無益にして、有害なものであると、彼のチャーチストが感じたような政治運動有害を唱へるに至りはせぬだらうかと云ふ事である。

若しも政治運動が此のように、否定せられるなればそれは大變である。それは過去に於て吾等が經驗した、無産階級政治運動の當否の爭ひ位ではないからである。兎にも角にも一度び政治運動なるものを經驗してからであるから非常な危險性が伴ふ事となる。×××××、××××××××××××××政治運動を、如斯錯誤から之を否定するような事があつてはそれこそ大變である。

過去に於て多くの先輩は、政治運動に伴ふところの危險性に付き屢々警告を發せられた。それは多くはブルジョアー政治との妥協に陷ちる事の危險に就いてゞあつた。

然しながら吾等は、無産階級政治運動の、稍白熱化して來た今日、新に政治運動に就いての危險を痛切に感じて來た。

即ち、政治運動を一度び、肯定したるもの自身が之を否定するときの來ることである。

親善の裡に潜む罪業の評價

牛窪愛之進

『支那は世界の癌腫である』と云ふ聲は洋の東西を問はず輿論となつて流行して居る。この輿論の流行を知らずしては世界の大勢を論ずる價値なしなぞと滔々たる愚論、滔々たる俗説が全世界の民衆を虚僞の煙幕を以つて被ひつつ壓倒して居る。

眞に夫れは單なる流行である。銀座街頭に輕薄極る醜態を曝すモダン・ガールの夫れに等しき意義なき誤まられたる時代の一片影である。

然れど支那は久しきに渉り、愛國を口にし治民安國を絶叫しつゝ、賣國を行ふ軍閥、官僚や合焚什をも喫する×××××××××××××汚染せられ、支那の樞機を握ると稱する列强外交官によつて僞報せられ、其眞諦を知ると號する支那通に依つて誤られ、永遠に怪異と謎の範圍を脱し得られざる境地に彷徨しつゝある。火の無き處に煙の揚らざるの例がこれ一般の支那觀所謂輿論の世に出でし處の眞因である。

余素より弱冠の一措大にして、支那に接し支那を研究するの日尚淺しと雖も、眞の民族社會の眞相を究むるの慨を以つて終始し、常に民族の歴史的展廻を基調としてあく迄檢討のフエアならん事を期する年あり。徒に珍侍の形而に論據を起し現に友邦民族を汚瀆しつゝ社會を横行する資本走狗の狼人輩徒が唱ふる俗説の如く奇嬌の文技を弄せんとするに非ず。

實に經驗し空想を表－詭辯を駁し僞飾を剥脱することによつて支那を謀し民衆を蠱し世界を誑する資本主義强流に對し、正義の彈劾を下して解放運動の旗下に參ぜんとするものである。何を以て支那を極東の癌也と爲すや何を指して支那を世界の癌也と爲すか。

かく彼等の唱ふる處、評價する處こそ悉く癌であり、癌の因子である。

余をして說かしむれば現時の支那は寧ろ全世界資本主義×××××××××強ひてこの點を以つて癌也と爲せばそには世界資本主義の傀儡のみを蝕む猛烈なる癌の因子であらふ。彼等癌の因子群－列國資本侵略主義及其傀儡の内尤も罪業の深きは日、英、米の帝國主義的資本侵略國及其一味である。

敢て母國日本×××××××××××。××××××××××××××××××。×××××××××××××××××××××××。

余は××××××××××××××××××××摘發しそうして糺彈する世界は自省と大觀の世紀にある。吾々日本民衆は特にこれを自覺せねばならぬ。虚言を以つて僞飾し、泥彩

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を以つて正邪を[illegible]裂し一[illegible]
たる行はれた時代に過去の×××××過
變的幻想時代であつた。血に興奮する
歴史の廻顧的情熱の日本[illegible]
「プライド」なぞと誤れる正義觀念に過
去を追憶し未來を想起し、ブルヂョア
文明に飛躍消滅する事に依つて人生文化の
極致にあるなぞ輕薄なる[illegible]にひたる
を止めよ。

今や世界は、こゝに新しく劃轉し始めたる地
球の大[illegible]に乘り！也。而して、吾等
は宇宙の偉大なる人類解放の舞臺に足
を踏みはじめた也、吾等は人類の歴史に
反省し吾等に恵まれし新時代に目醒め
ねばならぬ。吾等は[illegible]なる日本人で
ある可く焦慮する[illegible]前に[illegible]たる社會人
の本領を究め而して果す可く務めれば
ならぬ。

それは民族、種族を等閑視し、民族、
國家と云ふが如き個々の狹義に跼蹐す
る[illegible]
民族の[illegible]
意識の本[illegible]
に[illegible]
よ[illegible]
し[illegible]である。
ある。
×××××××××××××××××
××××××××××××××××××
×××××××××××××××××。
[illegible]
の[illegible]

爲政者に宣言す

今や無產階級の擡頭に對する支配
階級×××日に月に[illegible]りつゝ
ある。見よ彼等に聞こへし世界唯一の
暴法治安維持法は勿論、小作爭議調
停法、勞働爭議調停法、暴力取締法、
出版法、等々々。如何に萬民
の自由平等幸福を阻らんとする此の
主張、法律や×××××社會主義を
撲滅する事は出來ぬのだ。×××
×××××××、吾が無產階級解
放運動は依然として眞理であり正義
である。若しそれ暴法××××××
プロレタリア解放運動を撲滅を期し
得らるゝならば、[illegible]の[illegible]に安んじ
政の大獄、×××××××××
よりて、徳川幕府、封建制度は依然
昭和の現代迄も榮へてゐる筈ではな
かつたか。
洋の東西の歴史を繙く時、そこに幾
多の貴き××××××××見出し得る
ではないか。暴虐極りなき佛蘭西貴
族僧侶の專政治下に彈壓されたる民

衆の怒濤は遂に爆發して彼の大革
命となり、又、西暦一八八一年暴虐を
以て事とせし露帝アレキサンダー二
世×××××××、[illegible]
[illegible]
路西亞大帝國は、[illegible]
して、[illegible]
萬國無產階級の[illegible]
かしめたではないか。
是を見、彼を見ても何××××
××××××××××××
××××××××××××
××××××。屢々起るストライ
キ、頻々たるサボタージュ、尖鋭さ
[illegible]に吾が×××××××××
××××××××××××
×××××××××するものぞ。
吾々解放戰線にある者は、或は
治安維持法の[illegible]に、或は××罪の
名の下に、或は×××××
×××××、或は牢獄にその××
××××××××××××
×××××××××××。
××××あるのみだ（小松　尚榮）

にすむる大自然にひたり、明るき天地
[illegible]の一滴にも床しき風情を忍び得る
境地との比較、それはもとより問ふに
要なき實在の對比である。
東洋文明史上を[illegible]に探る支
那の詩文と詩境、文化と思想、想起す
るだに惡しくも文化しき限りであつた
誰か杜甫の詩に悲哀を思ふものありし
か。誰か、孔子の出現の裏に人間愛の
抵抗を感じて獸性を憶念するものあら
ふ。さあれ、志を新にして現存の支那
の諸象を見んか、無辜の民は戰火に[illegible]

財を失ひ、自由の天地に[illegible]を切らん
と騒々しくも[illegible]兒等に[illegible]しき、現代
の文明が作りなせし[illegible]の流行に[illegible]
の如く[illegible]に陥す。無抵抗に自殺
にして抵抗に惨殺、遂に正義の叫びなく
[illegible]に民の聲なく、地上に日に墮落し
行くばかりである。
那土の荒廢は從つて國威の衰微、國
家の喪失を招來するや言をまたず、一
面社會に民族、國家ありとする以上夫
れが××××、×××何れを失するも
もそは之に附隨す[illegible]。否、之が組織を

維持する民族、民族の破壞、放浪、被支配
に及ぶは何人も豫期しうる事なり
支那は遂に滿蒙の領域（滿洲國の主權
喪失）を見るとし、一事件、一事變の現
はるゝ毎に漸次其の國家としての權益を
失ひつゝあり、然して遂に[illegible]の現局とは
なつたのである。
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
の[illegible]
[illegible]
はた明に民族と云ふ人類を對手に宣戰す
るものにして×××××××××××
××××××××××××
×××」
指摘する[illegible]
[illegible]
[illegible]
人類として生存權を脅かされんとし[illegible]
つゝあり[illegible]
意に作成せる[illegible]
に支那[illegible]
る字句也と云ふを得可し。吾等は
一生存權の[illegible]スローガ
ンを以つて向後の支那に[illegible]にあた
る事を誓ふ。

「進め」記者へ御答

福田徳三

（一）

四月號御批評の文中、向氏が私の著述中焼直し誤譯其他の點について御論じ相成つたことは、私の書物の何れの版についてのことであるか、明記されてありません。同氏が問題とせられた點等は、何れも第二版以降の各版に於て、訂正加除してあります。殊に最新版たる私の『經濟學全集』（大正十四・十五年東京同文館刊）八冊について、其れを御覽下されば、右の様な御論は、起らないことと存じます。向氏は、舊版――中には二十何年も昔しの版――について、彼是申されて居るのではないかと存じます。何卒右新版御一覽を望みます。（但し向氏に望む次第ではありません。）

拙文の誤譯指摘中『福田は經濟史を知らない男だ』とあります。マルクスのインターナショナルに於ける行動が經濟史の問題であるとに驚きました。然様な經濟史なら、私は經濟史を知りません。然し別に今更向氏を先生に仰いで、向式經濟史を學ぶ必要をも感じません。

同じく『インフェエンスは何時でも「影響」だと思ふは、中學生だ』云々とあります。中學生だと云へば、私を怒らしめ得ると思ふなどとは、可笑しな話です。中學生でも、よくよくの低能者ならざる限り、モット話せます。而して、中學生の習ふフランス語にもドイツ語にも『インフェエンス』などと云ふ語はない筈です。又たバクーニンの句で、私が譯出したものゝ原文には、『インフェエンス』など云ふ語はありません。"exerce sur son parti une influence sage" とあるのであります。『インフェエンス』と云ふ語は、向式フランス語、向式ドイツ語には存するものと見えます。

"ブルジョア"とせよとの仰せですが、私は、近頃は、"ブルヂオア"と書きます。而して、其れが正しいと信じて居ます。

『勢力を振ふ』と改めよとは、インターナショナルの精神を解しないにも程があつた御論です。

『heure』は時機ではありません。時刻と云ふのが正確です。其を私は時期としたのです。時機よりは、原語に近いと存じます。

「來るであらう」は、『原文では、フランス語にも、ドイツ語にも、來る可能性があるとなつてゐる』と仰せられますが、其れは、眞赤なウソです。バクーニンに佛獨兩様の原文があるとは、私は珍らしいことを承る次第ですが、私の引いたのは、フランス語でして、其れには、"il pourrait arriver" とあるのです。フランス語の『コンヂショネル』は、到底其儘日本語に譯出することは出來ません。場合によつて、夫々違つて譯さねばなりません。彼の場合は、「來るであらう」で、別に間違つては居りません。

私の書物には、誤謬、誤譯、などは、澤山あることでせう。向式の指摘では困りますが、眞面目に御指摘下さる方に對しては、衷心から感謝して、一々敎に從ひます。然し舊版でなく、右申した『經濟學全集』について、御示敎を願度いと存じます。此機會に於いて御願して置く次第であります。（但し向氏には何も御願はしません。）

（二）

衡平社第五回大會記

關東水平社青年聯盟 平野小劍

本年度衡平社第五回定期大會は四月二十四日午後一時より京城市内堅志洞侍天教會堂にて開いた。參加團體五十六、出席代議員三百有餘人であつた。閉會は午後八時。

司會者、金棒君。開會之辭、李東煥君。

第五回大會臨時執行部委員として、

〔議長〕張志弼 〔副議長〕李春福 〔書記〕李東煥、金慶三。〔會場整理員〕吉奉贊、吉淳吾。

―〔決議事項〕―

1、總聯盟名稱變更の件 2、宣言、綱領修正の件 3、總本部執行委員選擧の件 4、豫算案編成に關する件 5、差別問題に關する件 6、[illegible]問題に關する件 7、水平社との提携の件 8、今後に於ける運動方針の件

―〔其他の事項〕―

イ相互親睦。ロ地方紛爭に關して。ハ不正なる衡平社同人の處置について。ニ野犬撲殺に關する件。ホ衡平社女性聯盟に關する件。

以上の議案は可決したるものであるが、そのうち『總聯盟名稱變更の件』は三四ケ所だけ郡、道（際）聯盟が出來てゐるが、組織機關が不充分だから全道に出來てから聯盟制度にすることとし、現在のまゝ總本部制を持續すべしといふのである。即ち、朝鮮衡平社總本部と名稱することに決定した。『水平社との提携の件』は如何なる程度と如何なる時機に於て提携すべきかを一時保留とした。『今後に於ける運動方針の件』は、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さて肝腎の主要問題である高畠君の『資本論』に就て、向氏が日々紙へワザワザ投書して『誤譯だらけ』だの『誤譯の標本』だのと云はれたことは、果然、漫罵であつたことを、此度の向氏の文によつて判然と知ることを得ました。原書と譯書とを對照しないで『唯先づ原書を手當り次第開いて二三行讀んで見て、こんな處は、蛇度間違つて居るだらうと見當を付けて、其場所を開いて見ると』云々と言はれるだけでモーモー、澤山です。人を見たら泥棒と思へと云ふのが、向軍治氏の人生觀と見へます。

警式の岡ッ引が、先づ良民を、牢屋へ打込んで置いて、扨て、何か罪に當ることはないかと、探し廻るやり方が向式誤譯指摘法です。

而して、誤譯の箇所は、譯者自ら之を申出づ可しと云はれるのは、證據も何もないのに、手前は泥棒をした、手前が自狀せずば、手前の身體に言はせて見せるとて、拷問にかける警察吏のやり方です。

日本の警察には、昭和の今日でも、時々拷問沙汰の噂を聞きますが、シカシ、當事者等は、新聞記者などに、詰られると、只管、其事實を否認するだけの良心は、持つて居るようです。

我向軍治氏は、『進め』紙上で、臆する所もなく、岡ッ引法、拷問法の實行者たることを、自ら名乘り出て居られます。

私は、此向氏を敎員と仰ぐ慶大其他學校の靑年諸君に、切に同情せずに居られないものであります。

幸ひ、私共は、向氏を先生と仰ぐものでありませんから、モー、此邊で御免を蒙ります。向後向氏が、何を書かれても、私は一切拜見しないことに致します。日々紙上の投書は、多少なりとも、センスのあるものかと思つた私の愚さを、私は自ら憫むに止めて置きます。

（三）

貴誌に對しては、深く御禮申上げねばなりません。何となれば、御陰を以つて、高畠氏譯の『資本論』が『誤譯だらけ』だと云ふことは、唯若干頁を手當り任せに開いて見た丈けの出鱈目の放言で、親切忠實に前後關聯を對照してのことでは毛頭ないことを確め得たからです。安部磯雄さん、小泉信三さん、若くは、吉野、上杉博士などが稱揚せられて居ると傳へられる言が、其れで、打消されないで濟むことを知り得ました。重ねて厚く貴誌に、御禮を申上ます。

（四）

シカシ、高畠君の譯本が、一の訂正を要せざる底の完備のものだとは、誰が言ひ得るでせうか。現に同君自ら、屢々、極めて謙遜に、率直に、識者の是正を待つ旨公言して居られます。私は、同君が、今後益々推敲、洗練を加へられ、而して、早晩、日々投書家の希望された通り、廉價版が刊行せられて、汎く志ある人々の手に、此書の行渡らんことを切望するものです。其爲めにも、親切叮嚀に、一々個所を明示して、訂正を要す可き點を、高畠君の參考に供するは、甚だ希はしいことと存じて居ます。何しろ、首尾[illegible]忍刻苦若干年、容易に他人の眞似の出來ない大譯を仕上げられたことは、學問の爲めにも、社會運動の爲めにも、感謝せねばならぬところです。若干の不備不足の爲めに、此書を傷けることは、センスある人間の爲す可きことではありません。私は、此書は、兎に角、日本の社會科學文獻の第一位に置かる可き貴書と思ひます。此貴書を更らに完全なるものたらしむ可く、力を高畠君に藉すことは、此書の惠に浴する何千、何萬の人々の喜んで迎ふるところと信じます。

從つて、向後とも、一々原文の當該個所と對照して、適切に又た眞面目に高畠氏の譯本について寄せらるゝ文は、喜んで拜見したいと存じて居ります。向式の漫罵なら、是非申すは、全く無駄と存じますから、一切具備にして置きます。（二・五・八）

過去に於ける運動は盲目的であつてあまりに他に依賴し過ぎた爲め、いろいろな方面に弊害があつたから今後は依賴心を絶對的に排して吾々自身にて徹頭徹尾戰線を開拓することに決定したのである。

其他の事項中の『相互親睦』とは衡平社同人間の反噬、反目を戒しめ合ふことを云ふのである。『野犬撲殺に關する件』は野犬撲殺は地方一般人より反感と侮辱を惹起するのみならず警察當局者によつて操縱さるゝは無意義行動とは云へ、吾人の良心上絶對排斥すべしと云ふのであつて、且つ野犬が猖獗を極めて民家に危害ある場合と雖も、それは地方警察官の責任であるから絶對干渉すべからずと云ふのである。

『衡平少年會組織に關する件』は少年の活潑なる勇氣を鼓舞させることゝ集合の修養を助長させるから大に衡平少年會を集めて完全なる發達を[illegible]しようと云ふのである。

第五周年紀念祝賀會

例によりて、第五回大會終了後の翌二十五日午後二時より侍天教堂に於て五周年紀念祝賀會を開いた。李東煥君の開會の辭について張相鎬君の式辭、内外よりの祝辭、祝電祝文の朗讀があつた。續いて、李奉麟、李止永、李大吉、李方根、金士典、朴什遠、李來思賢、金慶三の諸君の熱烈なる演說と、來賓側より福岡縣水平社同人松本清君等の演說があつたが、半ばにして官憲より中止を命ぜられた。次に活寫會員全永鎮、朝鮮勞働總同盟中央執行委員車今奉君の祝辭にて一時閉會し、音樂隊の行進曲にて式場を出發し衡平社會館にいたり紀念撮影をなしたる後入場に會して午後八時より餘興を續けて盛況裡に午後十時散會した。（下略）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「世界史の認識」の誤謬

——高畠素之、村松正俊兩氏に與ふ——

津田光造

わたしは現代の我が國の文明史家のうちで、高畠素之氏と室伏高信氏と新居格氏と村松正俊氏との所論に、最も多くの敬意と親愛とを傾けてゐる。そしてそれらの多くが、わたしの言はんと欲する所を言つてくれてゐるので、或る種の快適と共鳴とを感じ、その健康を祝福して止まないものである。

しかし、わたしもどうやら一生原稿といふものを書いて暮して行かなければならない人間の樣に、運命づけられてゐるらしいのだから、斯ういつては甚だその職に忠實でない樣な氣がするのだが、斯樣な人達が同時代に生きてゐてくれると、自分一人が時代を背負つて立つてゐる英雄みたいな氣持にならないで、物を書いたりシヤベツたりしないでもすむといふラクな氣持になれるので、ジヤーナリズムに迎へられないのを幸ひに、書かずにゐられる限りは出來るだけ書かずにゐようと、成るだけ受身になつて、人の世界を享樂してゐるのである。

所が人情といふものは妙なもので、同じ人間の中でも、自分に最も近しい關係にある人間の身の上に心が引かれる樣に、自分が一番敬意を持つてゐる人間のいふ事が、どのほかの人間のいふことよりも氣になるのである。

新潮五月號で高畠素之氏が「文壇社會學」といふのを論じて居られたのを讀んで、わたしは例の高畠式勇敢性といふ科學者的直言に觸れることができたのを非常に愉快に思つたが、どうも西洋文明崇が鼻についてやりきれなかつた。高畠氏はあれで自分では非常に現實的で科學的であると思つてゐるのかも知れないが、わたしから觀ると、それは現實の日本に對する非常な獨斷と偏狹と錯覺とに陷つたものに外ならなかつた。

で、斯うなると、わたしは賴まれる、賴まれぬに拘らず、原稿を書かずには居られなくなつた。これがわたしの癖である。それが發表されるから書く。といふ意味での職業的原稿書きではないのだから、書きたい時に書きたいことを書きさへすれば、その瞬間、わたしは十分自分で自分を享樂してゐるのだから、それ以上の享樂は、わたしには實にゼイタクの部類に屬する。原稿を發表して名前を賣つたり、原稿料といふものに有りついたりしようとすることは、わたしにおいては全くゼイタクなブルジョア意欲である！農民の本分は、稻を作りさへすれば好いのである。そして稻が好く實りさへすれば好いのである。米を値をよく賣つて金を儲け、天下に名を爲さうなどといふことは、農民においては全くゼイタクなブルジョア意欲である！

わたしは昨今流行の論客の流儀に倣つて、旗色を鮮明にしていふならば、何を匿くさう一塊の厄介な農本立國論者であるから、自分ではこのブルジョア意欲にスポイルされない農民の心をもつて心とし、田を作るが如く詩を作らうと心掛けてゐるのであるが、悲しい事に、いや悲しくも何ともない、わたしの樣な原稿書きを、それが賣れても賣れなくても渡世としなければならない人間に生れついた者には至極當り前千萬な事に、田を作らない當然の罰として、いくら原稿を書いても、中々に米にならない、飯にならないといふ事である。考へて見れば、原稿が金になつたり、米になつたり、或は飯になつたりすることほど、非科學的で、神秘的で不可思議千萬な事は無い。どんな非凡な科學者が西洋に出て、どんな巧妙な錬金術をもつてして、原稿が金になり、米に成り、或は飯になるといふこの神秘な現象を解き明かし得たか？寡聞にしてわたしは聞かない。高畠氏の科學的な「文壇社會學」からも聞くことができなかつた！是の神秘が科學的に闡明されなければ、文壇社會學といふものは根本的に成立しないとわたしは考へる。若しかくの如き神秘な現實を看過して、その上に文壇社會學なるものを建てようとならば、それはむしろ神秘主義に立脚して、空中に樓閣を築かうとする非科學的態度であると謂はねばならぬ。わたしが高畠氏の「文壇社會學」をもつて、非常なる獨斷と偏狹と隨つて錯覺とに陷つたものと爲すゆえんである。

そして今日わたしは東京日日新聞で村松正俊氏の「世界史の認識に就いて」を讀んで、殊に又悲しい西洋カブレの獨斷と偏狹と隨つて錯覺とに滿たされた評論に出逢つたのである！

わたしはいつか村松氏が讀賣紙上へ發表した「多元的文學觀」を讀んで、大體その論旨には共鳴したが、いま一息といふ所で不滿を感じてゐた。といふのは、村松氏は哲學者でありながら多元論の立場を認めて、何故にそれを包攝する一元論の立場を説かないか？

——わたしの形而上的欲求が、甚だそれを不可解ならしめたからである。そして今日この「世界史の認識」を讀むに及んで、わたしがそれまで村松氏の所論に就いて感じつゝあつた氏の認識の不足が、一層露骨にマザ〳〵とわたしの前に示されたのである！

一口にいふと、失禮かも知れないが、わたしの觀る所では、東洋文化の文化體系といふものが、高畠氏に少しも掴

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

めてゐない様に、村松氏も亦まだそれを會得してゐない一人であつた。わたしは茲で東洋文化の文化體系が含積する内容を、一々明細に書き立てゝは居られないから、ただ要點だけをいふに止める。

それにしても先づ困るのは「文化」といふ言葉である。最近誰れでも文化と、さへいへば好い氣になつて、文化住宅から、文化バー、文化石鹸の類に至るまで、無暗矢鱈に文化を濫用してしまふのであるが、それが哲學的意味において用ひられる場合には、わたしは「精神化」「淨化」或は「靈化」といふ言葉と同じ内容を持つべきものと考へる。そして「文明」といふ物質的意味を持つた言葉とは峻別したいのである。つまり、局部的に離れ〴〵になつてゐる生活の機能現象を統一する作用を一つの存在として見る概念を「文化」といふ言葉で現し、生活の多面に局部的に作用してその局所々々を支持する機關を一つの存在として見る概念を「文明」といふ言葉で現したいのである。是れを人間の個體の生命について言つて見れば、眼耳鼻舌身の五官は「文明」であり、それを統一する意（こゝろ）或は精神が「文化」の役目を爲すものであるといつた様なものである。

かくの如く、「文明」には五官あり、手足あり、臓腑があつて、多元的なものであるが、人間の精神に二つ無い様に、「文化」は一元的なものでなければならぬ。心は一つであるが、それは眼の心にもなり、耳の心にもなり、乃至胃の腑の心にもなり、二心にも、三心にも、乃至百千の心にもなる。是れを東洋文化──而もその精髓を成すとわたしの考へる佛教──而もその本懷とする法華經においては、一念三千といふ文化體系に歸納してゐる。一念三千の文化體系は即ち一元的多元論であり或は多元的一元論である。そしてわたしが村松氏に不滿なのは此の點である。村松氏はまだこの多元即一元、一元即多元の東洋文化の文化體系に含積された妙境を認識し得てゐないとわたしは思ふのだ。

さもなければ、「一文化體系は、他の文化體系と」（如何なる意味にもせよ）「融合は決してしないものである。」といふ様、多元論的立場に固着した迷論と獨斷とが、何處から割り出されたか？人間の精神が一つあつて二つ無い如く文化體系なるものも亦一つあつて二つ無いものでなければならぬ。但し茲でいふ一つといふ意味は「無數」の歸納であるから無數に演繹される。術もそれが文化體系であるからには、西洋のそれも、東洋のそれも、根本においては全く同一のものでなければならぬ。根本において全く別な文化體系を、どうして人間の生活が取り容れることが出來るか？早い話が、あの×××××××

×××××××××××××××××

現れた文化體系は、それが西洋文化の文化體系であるとは考へられないだらう。しかもそれは立派に西洋の文化體系を取り容れてゐるではないか？××

×××××××××××××××××

×××、佛教の文化體系があつたか？しかもそれは立派にその文化體系を取り容れてゐるではないか？是れを端的に表現すれば、キリストが出現する前に、クリスチャンがあつたのだ！キリストの文化體系が、有ゆる國土の人間と根本において全く別なものであるならば、どうしてそれが萬人の文化體系であり得よう。

わたしが共産主義や社會主義を信じるのもこの意味に於てである。わたしは生れながらにして共産主義や社會主義の精神を持つてゐた！若しわたしが生れながらにして共産主義や社會主義の精神を持つてゐなければ、どうしてわたしがそんなものを信ずることが出來るか？わたしはまだ馬に共産主義を説いて、その馬が共産主義を信じたといふ話を聞いたことが無い。共産主義や社會主義をマルクスやレエニンの一手販賣の思想の様に考へるのは、物質的私有の錯覺から來たブルジョア的偏見である。人間がさういふ錯覺の囚れから解放されない限りは、いつになつても、共産主義や社會主義の世の中が來ようとは思へない。東洋にも日本にも、昔から共産主義や社會主義の思想があつたのだ。それを西洋の特産物である様に考へるのは、佛陀の本懷とする文化體系の解らない人間のいふことだ。

然るに村松氏は「日本が從來有する東洋の生活、東洋の文化體系の全部を放棄して、西洋の生活、西洋の文化體

同志よ、行け！

俺は剝げかゝつたキン鍍金を
爪先きで啄いてみた
パリ、パリ、パリッ！
錆びた地金が露出して
皆んな剝げて仕舞つたではないか

友よ　服装を拔ぎ捨てよ
同志よ　眞裸體になれ
俺達は譬えそれが鐵でも良い
地金のまゝを要求するのだ！

見よ！

粉飾されたものは皆んな
都會の顔のやうに剝げるではないか
俺達はその粉飾された假面を
ツタ〲に剝ぎ取るべきではないか

同志よ！
友よ！
眞裸體で來い
そして俺達××××××行け！
黄昏は×××××××
俺達の行くのを待つてゐるのだ！

──田中政義──

系の中に入つたのである。即ち一切の日本的なるものはすでにほろんだのである。われ〳〵は今日、日本的なる如何なる存在も認め得ないのである。」とは何たる獨斷、何たる暴論であらう。村松氏が東洋の文化體系の全部を放棄するなら、それは村松氏の勝手だがわたしはたとへわたしが首の座へ据えられ、或はハリツケやギロチン臺へのせられても、東洋の文化體系を放棄しない。さういふ人間が一人でもこの日本にあるからには「日本は東洋の文化體系の全部を放棄して、西洋の文化體系の中に入つたのである。」とは言はせない。

東洋の文化體系なるものは、わたしの信ずる所では、それを知ると否とに拘らず、或はそれを放棄すると否とに拘らず、この娑婆の人間は、東洋人も西洋人もをしなべて、厭應なしに、その中へ入らなければならないものなのである。いかに村松氏がムキになつて、日本の現代の思想がどうで、政治がどうで、經濟がどうでとマクシ立てゝ見た所で、一念三千の眞理に微動だも與へないばかりか、世界はます〳〵一念三千の妙理に統一さるべく東洋へ〳〵と、日本へ〳〵と動きつゝある現實をまたどうすることもできぬであらう。

是れはしかし固より日本を深く見ての話である。村松氏の様に日本の現實を淺く上つ面だけを觀ていふならば、わたしも村松氏と大いに同感である。表面に見せつけられつゝある今の日本の文明についていへば、日本は正に歐米の屬國の如きものである。歐米文明に追從日も之れ足らないといふ一面がある。しかも歐米人のマネさへすれば新しく思はれ、新しく思はれさへすれば好い氣になつてゐる樣なアマさがある。

しかしながら、それが日本の全部ではない。さういふケチな××××××××××××××××。さういふ××××××××××××。×××××當り前だ。××××××××××××！西洋文明ではない！西洋文明よ、科學主義の文明よ、資本主義の文明よ、この低級下劣俗惡取るに足らぬ一切の輕佻浮薄な×××××！そのあとへ何が殘るか？何物の力をもつてしても××××××××××××××××××―その絕大な力が新日本を創造し、世界を更生する力である！

此の絕大な力が即ち法華經の文化體系である。成る程今は西洋の物質文明全盛の時代であり、或は唯物史觀全盛の時代である。といふのは今は恰も佛滅後三千年、人類は末法の時代の中に在ることを語るものである。末法の時代とは、世界史上における白法隱沒の時代である。白法隱沒の時代とは、正法（或は大法）の光りが、邪見偏見に蔽はれてしまふ時代である。是れは佛の豫言であるが、今吾々は是の佛の豫言通りに、白法隱沒の時代に在るのだから、資本主義の邪見は勿論、唯物史觀の偏見や、高畠氏村松氏の如き「飲佗極樂」の錯覺偏見が隨所に現れて、この娑婆世界を醜惡するのだ。そして娑婆世界の人間は、をしなべて不信に陷り無宗教に流れ、世界と倶に不老不死なる絕大な力を體得する事ができない。プロレタリアは貧窮下賤、ブルジョアは貪著五欲、狂妄見の網中に入つてゐる。而も世間の學者や思想家は、世間の俗法に染まり、妄見の網を破つて、正法の光りを示すことが出來ない。そして法華經の文化體系は、生活の地底深く空しく隱沒されてゐるのである！此の故に世界人類の生活は今墮地獄の生活である！その生活の此の[illegible]の[illegible]阿鼻叫喚の聲に滿ち、阿修羅の巷は南支一角の出來事ではない。今や世界を擧げて阿修羅の巷と化しつゝあるではないか！皆是れ法華經の大法（正法或は白法の文化體系）に對する不信謗法の罪報である！妙法蓮華經の普賢菩薩勸發品第二十八に曰く「若し人有つて、之れを輕毀して言はん、汝は狂人ならんのみ。空しく是の行を作して、終に獲る所無けんと。是の如きの罪報は、當に世々に眼無かるべし。」と。

然り。世界人類の生活は立て直されなければならない。世界史は新たに書き變へなければならない。しかも、それは如何に立て直され、如何に書き變へらるべきであるか？敬愛する村松氏よ！わたしは是の如く論ずることにおいて「空しく是の行を作し」たであらうか？

（昭和二年五月二十七日）

鐵道省と戰へ

櫻花も外に四月八日夜、當市川端演藝座で全日本鐵道從業員組合支部及び勞農黨主催の鐵道當局彈劾演說會の幕は七百の聽衆の拍手裡に切つて落された。前例に依りポリより道路御足勞にも寄贈人形三十ケばかりズラリとならんで宛然アメリカ人形の陳列會の如く見えた。

先づ彼の馘首同盟の首きられの同志連、本部の唐澤雨雄氏、勞農黨のリーダー柳橋氏、等、交々登壇し鐵道省の黑幕の不正醜惡行爲の數々を聽衆の面前に曝露し「今や全く橫暴極まりなき我等の×××××と化してゐる鐵道當局」を罵倒し「斯樣なる黑幕を露出し、正義に燃ゆる組合に加入するのに際し、××××××××を加ふるとは何事ぞ！」と一言一語と熱を加へ、其の辯ずる所、火を吹き、雷鳴疾風、憤激、氣勢あたるべからず。

最後に野獸に等しきゴマのハイ相澤所長に辭職勸告及び鐵道大臣並に仙鐵局長に抗議文を送るの決議をなし、午後十時半閉會。我が愛する同志諸兄よ！我々を應援支持せられん事を希望す。【秋田市　太田榮次郎】

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

カール・マルクス（4）

――その生涯と學說――

カハン・コーテス

十二、唯物史觀

吾々は茲では以上の問題にこれ以上深く這入り得ない。しかし吾々がマルクスの理論的體系を去る前に、唯物史觀に就て少しく述べて見たいと思ふ。唯物史觀は豫て發表せられた總ての學說の內で、最も多く誤まられたものであるが、これこそマルクス學說の本質なのである。

勿論、それは、如何なる時代の人間も、自分のなすことは自分自身の物質的欲望によつて動かされてゐると云ふ此の史觀によつて吾々が意味してゐない所のことを云はずに行くのである。これに反して、唯物論者は、最初に個人の欲望や理想や希望を認めんとするのである。マルクスの唯物史觀を最も完全に認めた所の哲學的唯物論者たちは、彼等の理想のために、彼等自身の物質的利益を最も犧牲的にせんとし、また犧牲にした所の人々である。このことの證明のためには、僚友に對する純眞の愛のために、××××××××生命をも含めた總てを捧げた所の、また捧げつゝある所の、ロシアの幾多のマルクス社會主義者の一團を擧ぐることによつて足りる。この唯物論者の偉大なる所は、彼が理想のない人間であり、また他人が理想を所有することを否定するが如きところに存するのではなく、事物の現實の內に深く入り込み、そしてそこに理想及び欲望――卽ちこの特殊なる時代に於ける特殊なる理想や道德や思想――をさがし求めんとする所に存するのである。

例へば、何故、吾々は野蠻人や、奴隷や、また農奴の觀念に思ひ及ぶ時、恐怖のために身震ひ感ずるのだらう。然るに現在の社會に存してゐる奴隷の隱れたる姿を非難することなく默認することが出來るのであらうか。これは唯だ社會の生產力が未だ貧弱で、原始的であつた頃は、戰時の捕虜又は捕へられた外國よりの侵掠者がその勝利者の下婢として働く以外に何の役にも立たなかつたからである。卽ち捕虜を養つて置くことは、唯だその社會の重荷であつたのみならず、また非常に貧しい社會にとつては、耐え難き重荷でさへもあつた。野蠻人は彼れ自身をかく考へはしなかつたが、然し無意識的に彼自身に對して、彼の思想や、道德的感情や、自分の友達を食ふことを自然のことゝし、全たく道德的なことであるとするその全心理やを、考へはしたものだ。と云ふのは、それを知らずして爲すことも、彼の棲んでゐた社會狀態の下に於ては、全たく自然のことであつたからだ。また或る原始社會に於て、女の子や弱い子を殺し乍ら、一方に於て自分の子供を非常に可愛がつたと云ふ習慣も同じである。然るに生產力が發達し、それがために物質が豐富になるに從つて、增殖して來る人々は祝福せられて、重荷とはならなくなつた。人間の生命の神聖なること、この友を食ふことの罪惡、こうした新らしい考へが、最初は微かに現はれ、次第に強くなり、遂に過去の習慣に取つて換つたのである。しかし、この思想の根底をなすものは何であらうか。その原因は何であらうか。これも無意識であらうか。道德觀の變化であらうか。それは唯だ生產力の發達又は後の社會の發達段階に於ける生產方法の變化によるのである。吾々は今日に於てこそ弱い子供を殺しはしないが、しかしその子供達の精神や身體を強くするための適當なる注意をせずに育てたり、又は年齡も行かない未だ學校に學んでゐるか、又は田舍に遊んでゐる樣な頃から工場や作業場の不健康な空氣を吸はせたりする。吾々は單調な勞働をさせて、子供等の身體や、精神や、精氣を破壞して終ふ。親切で、正直で、溫和である吾々が、大多數の人類より、人生に意義ある生活をなさしめるものを奪つてゐる。そして吾々の道德を、吾々の宗教も、そうしたことの總てを許してゐるのだ。何故か。それは現在の生產制度が個々の勞働者にどんなことが起らうとも、多くの安い勞働の供給を必要とするからである。吾々は私有財產と泥棒に關する法律を作つて、それに從つてゐるのである。また吾々は、或る一定の道德の法則に從がつてゐる。そして其等の道德や法律を不變のものと考へてゐる。尚ほ又、多數の勞働者の生產物が、少數者に擁有せられてゐることを許してゐる。そして其が合法的であり、眞面目であり、正しい行爲であるかの如くに考へられてゐる。何故か。それはマルクスの云つた如く、支配階級の道德や法律は、吾々には無意識の內に、社會の全部に强ひられて居り、そして其は、その社會の雰圍氣の中に於て、吾々の法律や道德は發達する如くに發達する。吾々は經濟的產業的狀態の一形態の成果に過ぎないものを全たく自然なものと考へてゐる。

然し乍ら、吾々の內の多くの者は、之れに對して反撥してゐる。吾々は、唯だ單に其が習慣によつて神聖化されて來たと云ふ理由により、または支配階級の利益と一致すると云ふ理由により、道德及び法律の原理をそう考へるの必要はないと云ふことを公言する。吾々は現在の恐怖が永遠に保持せられべき新しい社會狀態を建設せんがたる

めには、凡ゆるものを何時でも犠牲にすることゝ出來る。吾々が、かうした思想や觀念や熱誠に浸み込まれてゐるのは、何故なのであるか。また實際に行動を取る方法を教ふるものは何なのか。社會主義の建設を願望してのことであらうか。それは資本主義がその時代に強く開着したからであり、またマルクスが屢々云つた如く、また吾々が以上に述べた如く、産業制度の中に於て爲されたる驚く可き發展が固定し、最早や資本主義の下に於ける社會の進化と一致しなくなつたからである。加之、莫大な數の人の都會集中、多數の勞働者の工場集合、産業進化の結果として産業が集中せられ、産業的形態となつたこと、無産階級の見るに耐えざる陰慘と困憊とに比して、有産階級の富と奢侈と聞くに耐えざる有様――かうしたことを此れ以上こゝに許す餘裕はないが――その社會の資本主義制度の結果によれる各生活様式は吾々に新しき理想、新しき欲望、新しき熱情を與へる結果となつた。新社會の幻芽は既に舊社會の胎內に芽ばえて來てゐる。そして新思想は、次第に舊思想に代りつゝある。吾々が×××××××××××××××××××××なものであると云つても、吾々は吾々が腕を組んで、眼をつむつて、口をあいてゐさへすれば、社會主義のボタモチが口の中へ獨りでに轉がり込んで來ると云ふことを意味するものではない。否、吾々の云はんとする所は、吾々が腕を組んで何もしないで座つてはゐないと云ふことが不可避的であると云ふことだ。唯だ凡ゆる資本主義國における人口の大多數が××××××××なつて、自分等の住んでゐる社會の性質を眞に理解して來る様になることは避くべからざることである、また産業の範圍に於て、日々それ自體にハツキリして來る集産主義が、その産業にたづさはつてゐる勞働者を、生産に支配せられることなく、生産を支配せんがために、於初め比較的小さな經濟的利益のために、それから次第に政治的目的のために、閉結せしめられて行くやうになることとは、避くべからざることだ。一言にして云へば、經[illegible]さるが社會主義的に成熟して行くに從つて、勞働者の資本主義的觀念が社會主義的觀念に變化して行くことは避くべからざることだ。しかし吾々が、この變化の必要、又は必然を理解すればする程、それだけ熱烈に吾々はより×××××××招來せしめんが爲めに、社會の歴史的發達に從つて吾々の知る理想のために活動するやうになる。

だから唯物論者は、宿命論者以外の何物でもない。彼は理論家であり實際家であるのみだ。唯物論者は實現の可能があるかないか分らぬ所の美しい思ひ付かれた計畫――例へばユートピアンの社會主義者の考へたが如き――に對する同情によつて動かされない代りに、自分の信念が成熟の實を結ぶに相違ないと明かに知る方向に進んで行く。茲に於て、唯物論者は、現代資本主義社會の特殊形態は、勞働者の造つた剩餘價値が、決してそれに等しい報酬を與へることはなくして、資本家によつて獨占されてゐることである、と云ふことを發見した。かくて一階級としての資本家と、一階級としての勞働者との間には、根本的の[illegible]の奴隷とし、自己を最も自由に、思ふが儘に搾取したものは、勞働者の階級である。されば科學的社會主義者の主として唱へる所は、勞働者に[illegible]一である。尚ほ吾々は現在の生活狀態の研究より、集團をなしてゐる勞働者には社會主義が最も強く響くと云ふことを知る。工場勞働者や、自分の[illegible]地に働いてゐる小作人や、小賣商人[illegible]者即ち私的商人やが、その各々の生活狀態を束縛されてゐる所の心理學的效果を比較してみよ。農夫は孤立的の生活をなして居り、友達と交際する機會も少なく、その思想は比較的狹いやうであり、廣い世の中のことを知らず、また注意もしない。農夫は自然に支配せられて居り、その力に從ひ、その[illegible]の中にある。故に、超自然の信仰には從順なる從者である。農夫は自然の生活を自分自身の併か土地の上に自分自身の勞働を愛すことによつて爲してゐるが故に、友達との團結の觀念は、殆んど自分の胸に思ひ起らない。集産主義の觀念や、共行の觀念は、直ちに自分の全生命を委ねてゐる一點の土地のその總てを失ふかの如き觀念を起さしめる。農夫が自分にとつては單なる空想と思はねばならないことに、そう大した危險を犯さうとしないのは、全く當然なことであらう。農夫は社會主義の宣傳には明かに不適當なものだ。――勿論、土地が資本主義的方法による働きをなしてゐる所の大農場に雇はれてゐる農夫の場合は別である――。

次に小賣商人を取つて見やう。小賣商人の考へは、農夫よりはもつと社會的生活をなしてゐるやう[illegible]て[illegible]ゐるが、決して社會主義者の賴りになるものではない。小資商人は所有して[illegible]財産によつて、現在の産業組織が或る一種の冒險的な勞働者へ思ひ起す。小賣商人は日々、勞働階級の中へ突き落されると云ふ恐怖の日を送つてゐるし、また一方に於ては、財産を[illegible]

[illegible]

産の上に付けやうものなら、手を[illegible]大

息子が、その[illegible]氣味の惡い手を彼の財

した出世は出來ない。これが、即ち一階

級としての小資本家が、常に勞働階級

と共同の墓場を掘る所以である。これ

は勿論、中産階級の個々人に就て云ふのではなく、また上層階級が勞働者の解放のための闘爭に加はつて來ないと云ふことを意味するのでもなく、また上層階級が彼等の大なる機會と知識とに依つて、常に全く知的には階級外であること、即ち彼等が階級意識ある勞働者の觀念を十分に持つてゐることを示すものであつて、勞働運動に大きな貢獻をなしてゐないなどと云ふことを意味するのではない。

最後に、吾々は工場勞働者に就て考へて見やう。彼は私有財産を所有しないが故に、私有財産に對する執着は、比較的に少ない。勿論、工場勞働者と雖も、私有財産によつて生活をなし、又その脅威の内に置かれてゐるが故に多少それを欲求はするが、然しその私有財産に對する執着心は私的ではない。私有財産のない社會の想像は、それが他の者を驚かすほどに工場勞働者を驚かさない。工場勞働者は、失ふべき何物をも持つてゐないが故に、何人もが、何物をも持つべからざる社會制度の可能なることを受け入れるに、より多く考へが及ぶであらう。工場勞働者は日々、友達と交際をしてゐるが故に、考へは廣められてゐる。彼は品物を生産するに友達と一所にさせられてゐる。それがために、品物を團體的に生産すると云ふ觀念は、彼にとつては自然のことのやうに思はれる。それらの品物を團體的に所有すると云ふ觀念の及ぶのは、ほんの今一歩の所である。工場勞働者の雇主等は、彼等の共通の利益のために結合してゐる。――然らば何故、この勞働者が彼等の共通の利益のために結合しないのか――いや、結合してゐるのだ。工場に於て、都會に於て、勞働者は常に驚く程の人と人間の完成に面接せしめられ、そして人間が如何に自然の力を支配してゐるかを知らしめられる。故に超自然の力は彼に對しては幾らか脅威の力を失ひ、そして彼は自分自身の力に頼み甲斐のあることを知る。されば工場勞働者は勞働に就ての他の凡ての影響、教育の擴張、及び其他から離れてゐるが故に、彼等の内に宣傳せられた時は、社會主義の目的及び理想が豐かな地上に根を下すのである。故に科學的社會主義者が、個々の勞働者の集りは、遲かれ早かれ、社會主義の中に這入つて來ることは避くべからざることであると云ふのである。また此の宣傳を勞働者の内になして行くことによつて、社會主義者は出來るだけ急速にその變化を招來し得るために總てのことをなしつゝある。

この唯物史觀の僅かなスケッチの中に於て、若し一般に誤解されてゐるものゝ幾らかでも解くことが出來たならば、また此の問題に就てのより深き研究又は思索をなすことを刺激したならば、吾々の時間は無駄に浪費されなかつたであらう。

〔附記〕（本稿は今月號を以て全部譯了にする豫定であつたが都合に依り次號で完結することにした。）

叛逆者の歌へる

病氣しても藥も服めず
滋養さへ攝れない生活
悲しとぞ思ふ。

× ×

安靜を要すと醫者は言ふ
働らかざれば
喰へぬをどうする。

× ×

世を呪ひ人をも呪ひ
身を慨く
我が生命の盡きなん日まで。

× ×

この惱み
此の世の苦痛我が魂に
見よ××××××。

× ×

焦熱の地獄の惱みこの苦痛
世の貧しきもの
皆死ねとこそ。

× ×

日々に生きる苦痛を味ひて
たゞ待つものは
死とこそ思へ。

――小田 實――

失業者運動を起せ

永田繁澄

資本主義が倒壞期に入つた此の頃自由競爭は益々激烈となり、延いて生産過剩＝不景氣＝となり失業者を街頭に追ひ出す事實に驚くの外はない。

茲に着眼して昨年の春頃から各勞働組合が一齊に起つて失業反對の大運動を起した。而し乍ら、暫時して政治運動が勃發するや、各組合は殆どその主力を政治運動に集中したかの如く、最近に至つては失業者運動と云ふが如き言葉も聞かない。自然消滅、立消えの形と現在はなつて居る。

而し失業者運動は決して一時的のものであつてはならない、資本主義が存續する限り「働かせろ、喰はせろ」のスローガンを高く大きく掲げて進まねばならぬ。

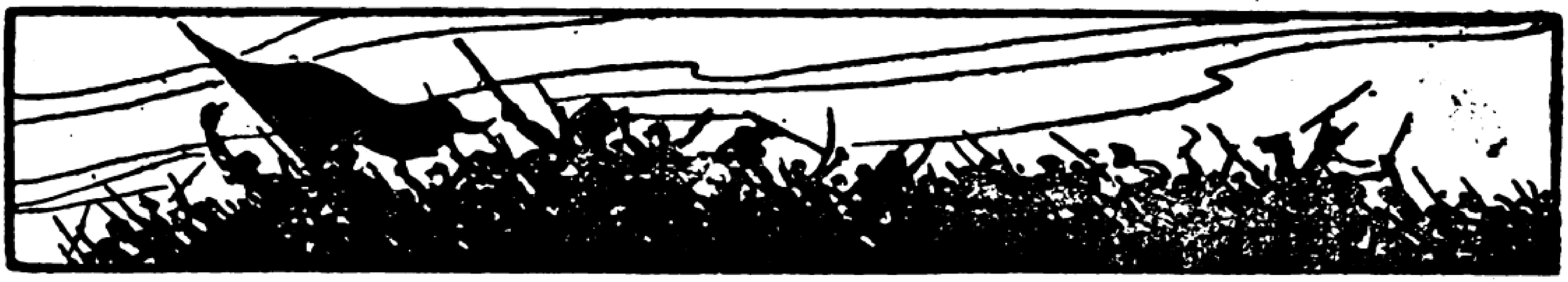
成る程政治的闘爭も必要であるが、今日より喰へぬ失業者の運動も又大切である。

失業者の組織は至難であるとするならば、現在組合員の失業者丈けでも組織し、飽く迄も「働かせろ、喰はせろ」のスローガンを掲げて猛運動を開始すべきである。

失業者は日と共に續出する今日、此の重大な運動が等閑に附されてあるのは甚だ遺憾と云はねばならぬ。

敢て各組合の反省を促し、各失業者は生きん爲め、喰はんが爲めに更に此の運動に參加す可きである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



全土戰報

青年市長の正體

名古屋市電は四錢均一だつたがこの六月から六錢均一となつた。無産階級に取つて大いなる負擔であるが市長田阪千助はたうとう本體を暴露してしまつた。

彼れ田阪が、まだ助役時代、前市長川崎卓吉の後釜に居据らせんとした、憲政會の市會議員一味は田阪を目して、青年市長などゝ市民を愚弄し、今日またもや煮え湯を呑ましめたのだ。市民の名に依つて妄動する憲政派一味の徒輩は憎みても餘りあるが、彼れ田阪も自己を買被り、市民を賣り、市長の椅子に戀々として意久地のないも程があると云ひたい。

彼れ田阪が市長に就任した當時、憲政派の議員と共に、ゆくゆくは市電に對して、市民は無料で乘車せしめるといふ口約した程だ。その口約のいまだ乾かざるに、車體改善、軌道延長などゝ、初めから判りきつてゐることを臆面もなく云つて、今回の値上げの理由としてゐる。青年市長として田阪を擔ぎあげた面々は、同じ泥田の鮒であらう。若槻（ウソツキ）内閣瓦解の行きがけの駄賃である、名古屋市電値上げは、どこ迄も我々の反對とするところだ。

青年市長の名に愧ぢる田阪の過去三ケ年の行政を見よ。是れみな、憲政會のために市民の名に依つて目的を遂行したに過ぎない。沐猴にして冠する田阪千助、青年市長と自派に謳はれた當時を回想して、せめての罪亡ぼしにソノ椅子を去れ。然らずんば市電値上げを撤回して、新行政振りを示せ。ブルジョアの手代番頭として、淺はかなる智慧に自惚を止めよ。敢へて青年市長田阪千助の反省を促す。【名古屋　加藤一郎】

他山の石は珍らしい

實際珍らしいものだ富山縣村山銀次郎氏が發見した經内幕之れを讀む時、何んと批評せば適當だらうかと朝夕少しの時間を借りて考へ出したけれど左の如くにしか思ひが出ない何んだか豚が人間の皮をかぶつた樣にも見られるし或ひは、文明化した盗賊であり、そして今日キリスト信ずる人の樣に、彼黨は年寄り老人のだまかしと信ずる樣になつた。之れ等を發見した吾等は、此れを此のまゝに置く事は出來ない。彼等の黨は吾等の敵である。一日でも速かに滅亡する樣に努力せなければならぬ。

彼の黨を日本農民黨と云ふよりも暗黒なだまかし黨といつた方が適當である。【朝鮮平北　宋正李】

此の犠牲を見よ（一）

忘れる事の出來ない三月三十日は俺に取つて最も悲しい日だ。それから社會を恨み、呪つてやりたくなつた。

俺は去年の六月九州の一寒村からはる〱近江膳所へ來て、旭絹織會社（人造絹糸製造工場）の紡糸課で働いてゐる。此の仕事場は强度の硫酸を扱ふ所で硫酸の酢ッパい蒸發の空氣を吸はなくてはならない。その硫酸の中へ手を突つ込まなければ仕事が出來ない。相手が劇藥だから有害な事は全くひどい。兩眼が痛み出し段々視力が鈍つてくる。二年三年と働いてゐる内に知らず知らず、内臟を壞されてしまふ。俺が此の工場へ來てから肋膜を患つて逃出した者は澤山あつた。再三再四斯うしたものゝ豫防策を頼んで見たが一向聞き入れてくれない。加ふるに休憩時間と云つたら全く申譯ぐらゐよりないのだ。規定に一時間と書いてあるんだが其實半分も休めやしない。それは仕事の都合でうまく仕組んであるのだ。此んな所に十二時間もブッ通しに働いて交代時間が來て外出する時には俺等の面は土色になつて硫酸の毒素が皮膚に沁み込んでゐるのだ。財布の銀貨白銅は眞黒に變化して、五十錢銀貨は一錢銅貨に化けてしまふ位だ今俺等は其處へカヂリついてゐるのだ。仕方がない。他に仕事がない以上、此處から逃げ出せないのだ。死よりも辛いとは全く此の事だ。

と云つてそう早く死にたくない。俺等も一寸でも長く生きてゐたいのだ。それで會社へ何とか改善の方法を要求して見ようとより〱俺等が相談した所が誰も彼も双手を上げての贊成だ。そこで三月三十日に一同集つて要求書を作つて翌三十一日に提出しようと話がまとまつた。其の要求は、一、八時間勞働にする事、一、豫防設備の完備、一、紡糸課特別手當金支拂ふ事。此の三件なのだ。誰が見たつて當然過ぎる程當然な要求なのだ。

所が此の事を知つた會社側は古顏の職工頭非賀次郎なる奴を利用して

俺等の集合の切り崩し運動にかゝりやがつたのだ。此の時、堀井の卑怯な態度に憤激した同志、久澄正義、野原榮の兩君は彼を詰問し、××××××××走つたのだ。會社側は早くも此の事を知つて堀井を外部へ逃がした。それを知つてか知らずか憤怒の兩君は工務室へ飛込み、堀井を出せ！堀井を出せ！と怒號したが、職長共は一向相手にしない。熱血の兩君は益々あせりたち、憤怒は爆發した。××××××××××堀井を出せ！堀井を×××××××××××××××××迫つた。その勢ひに吃驚した奴共は素早く會社×××××兩君を捕縛さしやがつたのだ。眞男兒野原、久澄の兩君は飽まで堀井の非行を絶叫しつつ警察へ引立てられ行く後姿を號泣しつゝ見送るのみだつた。事件は最早刑事々件となつて兩君は殺人豫備罪の下に拘置せられた。續いて同志太田君は解雇されてしまつた。最早や俺等の頼みは斷れてしまつた。俺等は初めて資本家と闘つて慘敗したのだ。

吾等が犧牲者久澄、野原の兩君は無慈悲な裁判官に懲役八ケ月を宣告され今は牢獄の暗きに淋しく活きてゐる。太田君は何處にゐるやら消息すら分らない。

俺等は三月三十日を永久に忘れない。そして資本主義の今の社會では到底俺等は生きられない事を明確に知つた。

俺は×××××●×××××。久澄や野原の×××××××××。××××××、×××、××××××、××××にしても飽きたらぬのだ。

全國の兄弟よ！吾等を毒する堀井寅次郎の如き徒輩を先づ吾等の列より蹴ッ飛ばせ。然して資本主義の魔醉を一蹴せよ。

團結だ！　團結だ！生きんとせば先づ團結せよ。

【滋賀縣膳所町　久澄　榮】

不法なる解雇

資本家の横暴と云ふ言葉は耳にタコの出來る程聞かされて來た、横暴であつてこそ資本家たるの資格が有る位に耳馴れもし今日迄彼奴等の横暴惡辣さには馴れ切る程屢々出會つたことだ。然し、今度の如きは珍らしい横暴の程を超えた横暴さで呆たく開いた口が塞がらぬ。

兄弟達よ聞いて呉れ！

俺達の町に越知製材株式會社と云ふ職工五十人位のチツポケナ會社がある。會社の幹部連の商策が拙劣な爲に事業不振に陷つて今度新參職工二十名近くを豫告無しに馘首した。

會社の都合上豫告無しに解雇される不條理も使はるゝ者の弱さで隱忍するとして其の解雇手當たるや驚く勿れ日給三日分。そこでだ、一體日給はどれ位呉れるかと言ふと腕ツ節の強い働き盛りの青年で朝の六時から晩の六時迄ブッ通しに働いて初日給九十錢其の他に一文の手當も無ければいくら精勤に働いた所で月一回の公休日も無い。

如何に田舍のことで家賃が安いと言つても米一升五十錢近くもするし散髮賃三十錢、の街のことだ、九十錢位のヘシタ金で滿足な生活が出來る譯が無くまして解雇された時の用意金等準備される道理が無い。

今度の解雇でも新參職工二十名近くも首を切りながら會社の職員社長以下七名、このチッポケナ會社に噛じり付いて動かない事業の不振は職工だけ見舞つて職員には關係の無いものか事業を縮少して事務の方だけ從前通り繁雜なと言ふ理窟が何所にある。

いかにせん職員は社長の子倅、親類緣者達のみで如何に惡辣な社長と雖も自分の身内だけには魔手が伸ばせないと見へる。

然し俺達は何時迄も柔順な羊ではない時が來たら×××××××××××××××なるのだ。

【高知縣　小田　實】

啓蒙語錄

陸軍主計總監、辻村楠造氏談『不戰の國防』なる題下に帝國在鄕軍人會富山支部發行雜誌月刊『富山支部報』三月、四月の兩月にわたつて左の論文がかゝげられてある。その内容は巧妙なる軍國主義鼓吹であるがそれ全體としては吾人との主義主張の相違として敢てとがめだてはしない、あの大部數を殆んど無料同樣に全縣の壯年男子に頒布される支部報に比し社會主義の雜誌の縣下に分布される程度のごときは九牛の一毛に過ぎぬであらうと思はれる。でこれがブルヂョア新聞と相待つて國民の常識を培ふ要素にならぬとは如何しても云はれないのである。本誌五月號戰線で三木田善太郎君が云ふ如く社會主義を危險思想なりと無產者の子弟にまでも考へさせるようになるのは此種の宣傳事業の結果である。

辻村主計總監によると『更に經濟方面を見ても今日は大資本に迎合されると云ふ有樣である。靴一つでも一資本の出來合を以て穿かされると云ふ有樣にさへ歐羅巴はなつた。それが段々世界に廣まつて來て今日は立體トラストと云ふ譯が出來て來たほどで何事でも大資本で一つの手に纏めてしまう。×××――元來猶太人は米國に於て、最も蔑つて基督教に苦しめられたと云つて敎會を止めよ日曜日を廢止せよとさへ唱へて居る。――×××――(筆者註、考へて見るとこゝが面白い物の見方である。で煩はしいが引用する)。――猶太人の如きも入國を許してゐないけれどもそれにも拘らずドン／＼這いつて來て紐育だけでも百五十萬人居ると云ふことだ。これらの猶太人が初めには新聞の配達所位をやつて居つたものだが猶太人の特性として金持になるのが上手で近頃は新聞社を其手に收めて仕舞つた。芝居や活動寫眞も同樣皆その手にとつてしまつた。デパートメント・ストアの如きも其の經營が殆んど猶太人の手によつてなされてゐる。株式市場の仲買人も多數を占め其他出來合服屋とか洗濯屋等は皆猶太人に據つてゐるバラチ大佐と云ふ猶太人は大戰當時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

来國の軍需品供給の局に當って莫大な利益を猶太人仲間に與へ、講和當時にはウヰルソン大統領に隨つて献策しその跡仕末に際して一擧に二百億圓儲かつたと云ふ話である。さう云ふやうな有様であるから世界を打ち毀してしまつて、自分等の世界を作らなければならない、神の選民は俺等だと叫んで居る。それで世を亂す爲には芝居や活動寫眞を以て淫蕩極まるものを演ぜしめるといふ有様で米國には最早藝術芝居を見る事が出來なくなつたと云ふのが今から三年ほど前の事であつた。今の世界の金持と云へば猶太人であるから、金權を以て、世界の總ての金庫を、我前に跪づかさうと目論で居る。――斯ふ云ふ所から見ると所謂世界を赤化し社會主義を鼓吹して世を亂さうと云ふ奥の手も判るのである」（傍圏點筆者）

そしてこのユダヤ人共のこしらえた資本主義が太平洋を渡つて喬木日本をなぎ倒しに來たと云つた調子の談話筆記の形の論文である。讀者よ靜かに思へ、これが日本帝國の高給を食む高官の責任ある放言である これらの言葉が社會と云ふ畠に蒔かれて、どんな結果を國民生活の上に收穫得來せしめるかと云ふことを。筆者は終りに辻村氏に對し一言して置く世界の資本主義は在米猶太人の策略でも何でもない。それは社會進化の必然の經路である。「疑心暗鬼を生ず」心を歸めて完全に近い社會觀を把握して歪んだ議論をはきなさるな。日本人全體の爲に惡い。あなたの爲にも第一よくない。

ブルジョアの走狗

【富山縣　村山銀次郎】

現代社會に於て吾人の尤も不快に感ずるは自動車である。彼の自動車は雨天に於て通行人に飛ばし汁をかけ其儘走り去るのである。此自動車なる物の所有者は必ずブル階級の奴輩である。彼等は金力に依りあらゆる横暴を極めて居る彼等ブル階級に依つて出來て居る×××××××好都合に出來て居るのであるから此法律の下に置かるゝ警察署にケシカル奴輩も常にブルの鼻息を伺ふに汲々として居りますまいか。見よ。去る三月二十五日鴻崎より東浦方面に走る自動車と東浦より鴻崎方面に走る自轉車と道路カーブの處で正面シヨウトツを爲したり、吾は自轉車ベルをナラスも彼は警笛をも鳴らさず走つて來たのである。彼の警笛を鳴さゞる事は違法である。然るに彼運轉手は一言の斷り（詫び言）も無く去ると云ふのは甚だ不都合である。依つて吾は半田警察署に出頭し愛知七四三の自動車所有者を聞くに二人のボリ正面の椅子に居り（金筋入りの奴）曰く、それは保安課でなければ分らぬ。とヌカシ郡内の自動車なるや否やも調べ様ともせず何だとヌカすので有るから事情を述べ警笛を鳴らさぬ運轉手の不都合を語れば彼等××××××そんな事は假令警笛なくとも分りそうな物だ御互に氣を附けねばならぬとヌカすのであつた。

咄！警察なる職務にある者の言葉は斯らしたブルの保護に出て居るのである音に依つて知れる知れぬは之れは常識の問題である。若し不具者（ローア者）であつた場合何とする。總ての法律を常識で解決するので有つたら何故月夜の無燈を科料に處すか如何に月夜にても無燈は無燈として科料に處し乍ら自動車のみカーブに於ても警笛を鳴せずによいか？彼等警察の金スジ入りの肩章を附けて居る奴の解釋は此の如きであつて、吾が國民の思想を惡化せしむる要因は彼等の如き××××××あつて、決して主義者に有るのでは無いのである。彼等の如き不良分子が警察にあり片手落ちのさばきをせんとするに於て始めて善良なる人民も之れに不滿を抱き、遂に資本主義を呪ふ様になるのである。吾人は斯くの如き不都合なる××××××××××××××××××ならぬ。

鐵道省の陰謀

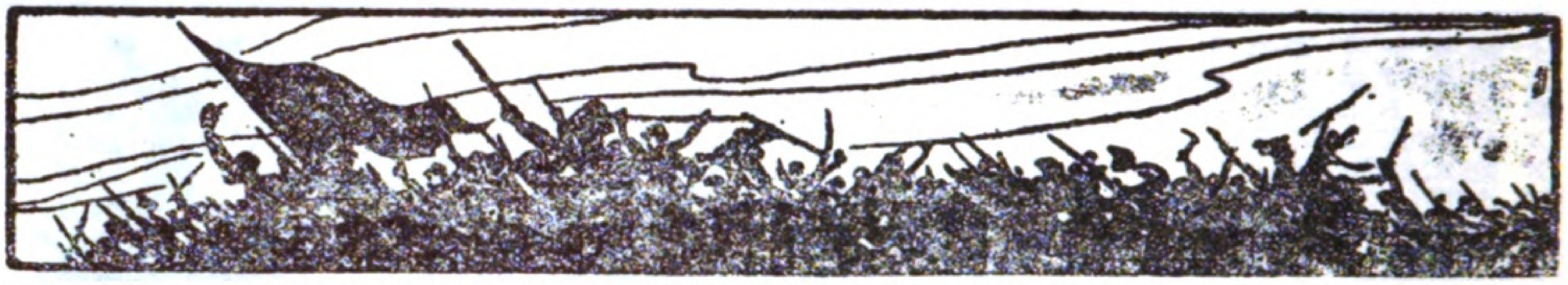
【愛知縣　產米生】

今回ブルジョアーの代辯者鐵道省が吾々下級從業員に與へた×××××之實に全無產階級全勞働者に加へし×××××、而して支配階級が被支配階級に對する××××××××ある。私等は日々過勞なる勞働を荷負され不當なる永續勤務を強ひられ、非常なる心身の疲勞を感じつゝ、休息の時間を利用して、全日本鐵道從業員組合の組織運動の爲に活動を續けて來たが、最初當局の此組合に關する意嚮を窺つたのである。處が當局は何等意見をも公示せなかつた白紙主義をとつて居るものと信じ益々組織運動に努力し日一日と旭日昇天の勢にて發展し短日月の間に全國に六十餘の支部設立の隆盛を見たが、當局が此健實確固たる組合と爲るのを驚愕したのか、若木の内に新芽をつまんとして、突如吾々全國の同志各本、支部の首腦者七十有餘名を馘首した。斯の如きは實に×××××××はなはだしく鐵道從業員として最も相應しい若き勇敢なる有意なる青年を鐵道界から放逐し、失業者たらしめ、今迄でさへ充分に滿すことの出來なかつた其少量のパンも剝奪してしまつたのである。

それも彼等特權階級の惡用するに都合の好い口上事務の都合にと云つて鼻紙にもならない樣な一枚の紙にて首を切つてしまつたのだ。吾々は亦此處にも現社會に於ける矛盾不合理を見出すことが出來た。

如何に彼等資本家の×××××××××××××××とは云ひ乍ら一つの事故も過失も無く眞面目に勤務を爲して居た有望なる青年從業員を而かも組合の中樞幹部を馘首したことは、之れ即ち組合を破壞せんが爲の魂膽であり、且つ陰謀であることは一目瞭然であり、然して吾等が資本家と鬪爭するに必要な唯一の×××××××××××××××全勞働組合否認であり、全無產階級に對する××××××××ならない。且つ犧牲者の出る度毎に國家資

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



本主義トラストの斷末魔の近づきし暗示を與へられてゐると共に吾々の現社會に生きる上に餘りにも弱き者であることを判然と見せ付けられたのだ。

吾々弱き兄弟同胞の多數が一朝一夕にして××××××××××××××××××××××××、吾々の生存權確立の爲、理想社會建設に尚一層×××××××齋ひ立たねばならないのだ。【京都　岡地稚孝】

無產者は無產政黨へ

普選に直面し既成ブルジョア諸政黨の魔手は、吾が岐阜縣の隅々に至る迄も襲ひ各政黨は政權を獲得せんが爲めあらゆる方法手段戰術を講じ、今や必死狂狀となり、正に來たる可き普選による總選擧を眼前にし新らしく政治に參加せんとする一千有餘萬の新興階級の選擧權を有效に行使し完全に自己階級の支配下に置かんとし今や時局內狀を一般民衆に訴へ朴烈事件、松島事件、震災手形法、樞密院專制だとかあるひは、臺灣銀行救濟、對支問題等の諸問題を論じ自己政黨の政策を吹聽し一般國民の歡心と信賴を買はんが爲め言論に於いて、あるひは新聞紙上に於いて堂々と論じて居るのではないか。見よ！一般無自覺な青年大衆は彼等ブルジョア代辯者の傀儡的政策に乘り地方青年大衆は旣成政黨に使され彼等の下級となり、踏臺となり足場となつてしきりに政治運動を捲けて居るのではないか。即ち最近吾が進め支局の近町へ發會式を擧げたる元、憲政、政本を背景となす、全加茂郡青年聯盟及加茂立憲青年黨の諸政治團體が結成されたのが即ち其れだ。吾等青年大衆は彼等旣成政黨が如何なる民衆の利益なる政策綱領をかゝぐ共、吾等青年大衆は斷じて彼等の政策、甘言に迷はされてはならないのだ。

從來旣成ブルジョアの政派が何に一つとして民衆的な政策を實現したか。實現する處か彼等ブル代辯者は無產階級解放運動には徹底的に彈壓せんとする惡法の數々を制定し、最後の段階たる帝國主義に入つた財閥的寡頭政治は今や益々無產大衆の解放運動に對し×××××××××××しつゝあるのではないか。起て青年諸兄よ！吾等の目標である××××××××××××××××スローガンの旗印の下に一大無產政黨へ走るのが吾等無產大衆の進路でなくてなんであらう。【岐阜縣　水野貝三郎】

橫暴なブルジョア

吾が支局所在地西大寺町では今回ブル階級共百餘名集まつて納税組合を設立した。是れは非常に結構だが彼等が組合設置に就て執りし行動が甚だ怪しからぬ。彼等ブル共は五月十五日に役場に集合し設置問題を議了し直に折詰酒等を以て宴を開き（但し其費用は無產者迄全町民の頭に掛つて居る）終つて、折柄同町吾妻屋に開演中の芝居見物に出掛けた此の芝居が納税宣傳劇と稱して居る『孝子傳一』喜劇『嫁入道具』外に悲劇二場等である。納税宣傳に何等關係はないと思ふ。夫れは兎に角普通入場料五十錢但し（納税組合）役場にて賣る入場券なれば二十錢で入場出來る。即ち金持ちは二十錢で入場出來るが貧乏人は五十錢なければ入場出來ぬ。何んと不公平極まるやりかたではないか。其の上彼等ブル共や町會議員が入場券を押賣りして廻るなどは、全く言語道斷。のみならず彼等は納税不納者は三大義務の一ッを知らざる國民なりと吹聽したとの問題で當日劇場內で無產者團體から不平の聲とりどり、或は近く問題を惹起せん。【岡山縣　倉本晃南】

祝農民黨全滅

詐僞漢に近いあふれ者共が企圖した日本農民黨富山縣聯合會？とやらは全滅した。初め無產黨と稱し美々しい宣言綱領をかゝげて中央の事情に暗い富山縣吳山以西の志士を糾合したが、辻褄の合はぬ幹部の言動の爲に裏を見すかされ離いて脫黨したものが多かつた。縣下無產政黨結成史に糞を塗つた吉田平治の罪は重いものであらねばならぬ。また似而非農民運動者萩原正清もいまや吉田一郎君によつて正體を曝露してしまつた。而もその內容のみにくさは話にならぬものがあつた。中央委員吉田平治は痴漢健名某から起訴された罪名は詐欺橫領である。その爲に罰を逃れる工夫を臆面もなく、中島安太郎君に相談に來たり出町檢事局に依賴して中島君を檢事局へ召喚したりしたと云ふことだ同君こそいゝ災難である。勝手に世間を噓つきまわつて揚句の果に厄介なケツを持ち込まれたのでは何の話かあきれ返つたであらう。事件の內容を聞けば吉田平治が健名某と云ふ痴漢の金を二百圓正金でとつたのだ。新聞を出すから保證金にすると云ふのださうだ。金も新聞も出されなくなり痴漢に起訴されたのではたまつたものではない

健名某は草高一石を五百圓とかに賣つて農民黨へ寄附すると云つて出したのが惜しくなつたのだとも云ふ

夫からこれは特に云つて置くが東礪波郡北野村次郎丸健名喜一郎とか國際聯盟富山縣何とか日本農民黨何とかと云つて新聞や雜誌をよこせとか何とか云つて諸君や諸君の雜誌社などへ何でも送つて吳れと云つて來た場合には考慮なさい前金の場合は別として金を拂はないばかりかそれを種に惡口を云つて歩く。現に彼は杉山元治郎氏の手紙を持ち歩いて農民をあざむき廻つてゐるのだから注意されたい。（彼は常に赤松克麿君、松岡君と知己友人の如く云ひ歩く）

それから中島君も健名のような阿呆だら經と一緒くたに思はれては社會運動を冒瀆する甚だしい結果になるので、吉田對健名の二百圓問題解決以來彼等には全然勿論日本農民黨とも公然隱然關係はないことを『進め』讀者諸君に斷つて置く。【富山縣　河部丈作】

朝鮮社會運動小史序說

金熙明

はしがき

植民政策の特殊な事情の下に隷屬してゐる朝鮮に於ける社會運動史を研究して、その過去、現在並びに將來の社會運動の發展狀態を窺明し、その情勢の內容を詳かにするのは決して徒勞ではなからう。私は本研究を正統且つ公正たらしむるため最初に於て歷史的文獻の蒐集に專力し、更にその正確を期するためとを嚴密に檢討して、最もその事情に明確なる最近の情勢にのみ專力を注いで記述することにした。

最近の朝鮮史上に於ける二大轉換期は、一九一一年の日韓合併並びに一九一九年の朝鮮獨立運動の二大事件であつた。即ち前者は朝鮮が國家的獨立性を喪失して日本の植民地に隷屬されたことであり、後者はその被壓迫的境遇より××××××××××××を欲求することにあつた。我々はこの最近に於ける二大運動を經濟的發展情勢より窺明するに前者は朝鮮に於ける資本帝國主義の急激なる浸入であり、後者はそれに×××××××××××とも解釋することが可能であらう。何故なら朝鮮獨立運動は、その表面上の理由として、時代の潮流に被應されて民族自決主義的運動として開始を見たけれどもその結果の產物としては經濟上の階級的對立思想の確固たる基礎を與へたものである。我々は斯の如く短期間に於ても政治上の民族運動が急激に經濟上の政治運動化された事實を歷史を以て證明し得ることが出來る。それ故に本稿も便宜上之を三ツの時期に分類して、即ち一九一〇年以前に於ける韓國獨立時代、一九一一年より一九一八年に至る政治上の民族運動時代並びに一九一九年以降今日に至る經濟的政治運動時代の諸運動に就て小考を盡さんとするものである。

私は研究の都合と便宜上本稿の順序の如きも朝鮮獨立運動時代より筆起して序說といふ標題の下に未定稿のまゝ本稿を了り度いと思つてゐる。本稿を起すに當り本誌昨年十二月より本年六月までに完了した、『植民政策裏面研究』と共に、その起稿の動機と便誼を與へた『進め』社の諸氏に深謝すると同時に『文藝鬪爭』の諸僚友並びに先輩淺野研眞氏の誠意ある御鞭達に厚くお禮を述べてをく。

一、朝鮮獨立運動の眞相

一、三月一日

一九一九年三月一日久しく沈默に閉されてゐた、暗黑の朝鮮には、×××××××して自由に憧がれてゐた二千萬朝鮮民衆は熱狂した。早朝から京城パコタ公園を中心として參集した數千の學生は、續々と群り寄る數萬の民衆と揉合ひ乍ら、德壽宮大漢門前、フランス領事館前、アメリカ領事館前、南大門停車場前、昌德宮前、朝鮮步兵隊前等の廣場を目がけて、押寄せ、口々に『××××××』を熱叫怒號し、終日京城府中を狂ひ廻つた。之が即ち朝鮮獨立運動の勃發最初の示威運動である。

二、獨立宣言

識者階級に於て朝鮮獨立運動の企ては餘程久しく前から論じられてゐたけれどもその實行の好期を秘かに待つてゐたが時折しも李太王殿下の御薨去があり朝野の臣民等しく哀悼の至誠に泣き、揃つて御大葬の行列に參列する故を以て地方民が日にも何萬と數へる程京城へ押寄せて來た。××××××××××、三月一日早朝突如京城の街頭には天道教主孫秉熙等三十三名の連署したる韓國獨立宣言書が宣布された。李太王殿下の御薨去以來、怪しい流言蜚語が傳へられ連日不安の氣に包まれて居つた京城はそれ以來民衆の海と化し修羅の現場の如くに化した。この日同じ手續きを以て、朝鮮全道は勿論、東京、大阪、上海、滿洲其他の朝鮮人居留地に於ても全く夢の如く突如と、斯くの如き宣傳文が飛び示威運動が行はれたのは今だに耳新しい事實である。

（獨立宣言文はこれを略さねばならぬ。）

三、三十三名

此の日の未明、獨立宣言の陰謀計劃は端なくも官憲の耳に這入つたので、朝來官憲の大活動は開始された。然るに宣言書署名者三十三名の居宅は、申合はした樣に何れも脫けの殼であつたその時、警務總監部の電鈴が鳴つて、『我等獨立宣言書署名者一同は今太華館に於て縛を待つて居る』と自首を申出たのであつた。それから當時不在であつた四名を除く二十九名は第一號室で逮捕せられ、自働車で警務總監部拘置場に收監されたのであつた。

四、國葬參觀か、示威行列か？

げに朝鮮獨立運動は、電擊の如くに起つた。當時李太王殿下の國葬は後二日と云ふ京城市中は都鄙幾十萬の參觀者を以て埋つて居つたがため、示威運動の氣勢は更にその餘炎を煽つて、日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ならずして朝鮮全道に呼應蔓延するに至り、かくして近代的無抵抗主義獨立運動は、日韓合併後茲に十年にして電撃の如く勃發し、國葬當日の如きは國葬參觀の名の下に、手に〳〵小旗と宣言文、獨立新聞等を携へて沿道に呻き、叫び歩るいた。

五、民族自決主義

一九一八年一月八日、米國大統領ウヰルソン氏は議會に臨み、世界戰亂講和基礎條件として十四個條を提唱して民族自決主義を高唱し、翌年一月講和會議がパリに開催せらるゝや、ウヰルソン氏亦渡佛して、宛然たる盟主となり、民族自決主義を高唱した。これが世界に於ける弱少民族並びに被壓迫民族の上に大なる刺戟と飛躍を與へたことは、彼のトルコ、印度、朝鮮、アイルランド、フイリッピン、其他の植民地の××××に依つても知ることが出來やう。

六、朝鮮獨立思想の由來

朝鮮獨立思想の由來は決して偶然でも珍らしくもない。來るべきものが遂ひに來たに過ぎなかつた。

凡そ、歷史を異にし文化を異にした異民族間に於て不和が繼續され得ず、政治的平等が確保され得ないのは從來の歷史が證明する處であるが、殊更民族的優越意識が濃厚であり主從的關係並びに×××××××××××××××××××××××××××××××希願するであらうか？我々は茲に民族的感情を拔きにして考察してみてもその×××××××××××××××××問題としなければならぬ。之は一種の常識的批判に過ぎないが我々はもう一步突き進んで政治上、法律上、經濟上の諸問題に就き科學的に檢討を怠るものでない。

現在に於て朝鮮は隱すことの出來ない日本の一植民地に過ぎない。しかれども朝鮮と日本の國家的結合の根本動機は征服による占領にあらずして平和と福利のため好意による併合であつた我々は併合當時に於て日韓併合が果して朝鮮全民族の意志そのものと云ふのでは決してないけれども、その條約成文によれば好意に依る併合の意志を表示してゐるのである。しかしながら日韓合併は果して朝鮮全民衆の經濟的、政治的、社會的並びに精神上の生活に如何なる影響を及ぼしたのであらうか？

この問題は別の機會に於て論究したるを以て茲に於ては單に歷史的變動の推移のみを述べることにする。（拙稿『植民政策裏面研究』參照）

兎に角日韓合併は朝鮮民族の生活上××××××××××、×××××××××。日本は帝國主義の世界的延長のため滿洲、西伯利亞、支那、朝鮮をその略奪となし、マーカンチリシステム、利權の獲得、移民の獎勵、開拓會社の設置、資本の投放等の如き資本主義制度の下に於ける××××××××××施設を怠らなかつた。それは甚だ短期間ではあつたけれども經濟上に於て彼等植民地民族の×××××××××××充分なる施設で××××××××××××××××あつた。即ち開拓會社の獨占、移民保護に依る勞働者の農產業問題の惹起、殖產銀行其他金融機關設置に伴ふ資本主義的金融に依る產業經濟の恐慌は即ち植民地原住民の生活破滅の客觀情勢である。加ふるに第一代總督寺內正毅並びに第二代長谷川好道總督の如きは、空飛ぶ鳥さへ振り落されると云つた位ひ××××××××××××××××××××××××××××××、××、××××××××××××××、×××のであつた。斯くの如く武斷的政治は政治的に朝鮮民族の社會的地位並びに經濟的價值を侮蔑し、經濟的に××××××××落ちて入つてゐた。

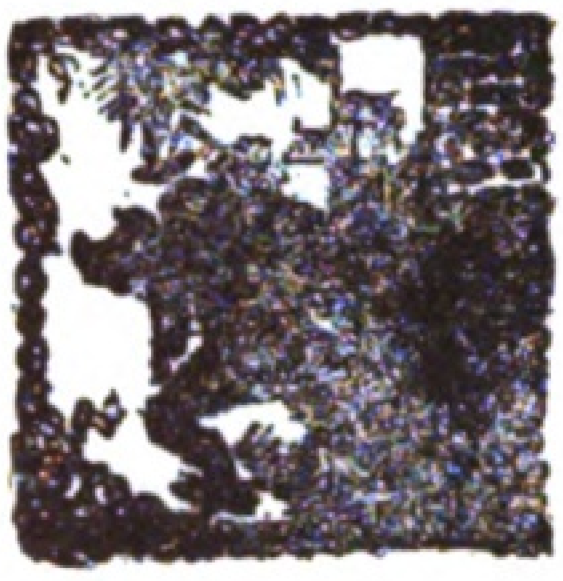
日本と朝鮮との間に併合が行はれ一九一一年より一九一八年に至る十年間は斯くの如く朝鮮民族の反抗と政治に對する不平を內在的に指導し醞釀した時代であり一九一九年の彼の獨立運動勃起は××××××××××××。×××突如と電擊の如く勃起したのであつた。

悲痛なる叫び

雜多なプレベルトの聲の中に仕事に疲れた女工の叫びが、さながら死の魔に取り付かれたかの樣に細く途切〳〵に聞えて來る。眼には淚を浮かべ細き躰は黑の作業服に包み、雪降りにでも會つた如く綿屑を全身に受けながら歌ふ際、其歌こそ我々紡績從業員の半面を露骨に云ひ表はし且又、我々の悲痛なる叫びでなければならぬ。喰はんが爲、親に孝行せんが爲め、人生中、最も樂しかる可き青春時代をブルジョアーの爲めに一枚の花瓣の如く消え去るのである。ブルジョアーの手先冷血漢募集人がきて胴欲なる地主の搾取に耐え兼ねた純朴なる農民は娘の嫁入仕度だとか、何月幾何かの金を送らすからと云ふ勝手な良い理屈を聽かされ遂に愛する娘を託するのである。連れて來られた本人は來て初めて驚くのだ。そして親の爲、喰はんが爲め死に近寄りつゝあるのだ。ブルジョアーは×××××××××××××××居る。紡績女工さんも其犧牲者の內だ、×××××××××××××××××××××××××。我々はそれを知りつゝ喰はんが爲屈服して居るのだ目覺よ！　生きんとする者は目覺よ。××××××××××××××××××××××××××××××××××××××！×××××××××××××××××××××××××××。經濟的にも、政治的にも××××××××××××××。人口問題、產兒制限問題、犯罪者の續出、之皆無產者××××××××××××容易に解決が付くのだ。我々は×××××××××。×××××××××××團結する事に依て我々の社會が建設される。（伊藤誠一）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



聯隊長謝罪文請求事件

—屍を履んで—

布施辰治

一兵卒から聯隊長への謝罪文請求事件として、原告青谷誠次郎対被告西郷豊彦外一名損害賠償慰藉料請求事件は判決の勝敗如何に社會の注目を集めたのであるが、同事件の内容と經過には其の勝敗如何よりも、ヨリ重大なる意義があるのであるから、事件關係者の一人たる私は、ここに、其の重大意義を公開して、其の判決を通した勝敗の判決よりも、ヨリ深刻な社會批判の徹底を要求したい。

× ×

私は、此の小稿に何故「屍を履んで」と題したか？から述べて行くが、ブルヂョア階級の勝手に制定した現行法律を武器とする階級闘爭の法廷戦に就ては、彼等から戦ひを挑まれた被告としての反撃抗爭は、素より止むを得ない事であるが、私共から其の戦ひを挑む攻勢の原告として起つ法律闘爭の無益を難ずるものもある通り、現行法律を武器として、常に必ず、法廷戦の勝利を期待した攻勢の原告に起つ事は木に寄りて魚を求むるよりも迂愚の無駄骨折である場合が多い。

× ×

が、しかし乍ら、如何に現行法律がブルヂョア階級の勝手に制定したものでも、一般民衆の爲めの公益公安を看板とした立法であつて、其の適用を成法文理の解釋に委ねて居る限り、ブルヂョア階級の爲のみに解釋する勝手は許されない。

× ×

ブルヂョア階級線に鎮座する今日の官僚裁判官に、随分思ひ切つた成法文理の解釋にも、事實有無の認定にも其の専擅振りを逞しふしては居るが、あまりに明確顯著な事實の有無を、無有に認定し得ない、と同時に、成法文理の一讀に爭ひ得ない利害の解釋を害利には解釋し得ない。

× ×

左樣した場合の法廷戦を攻勢原告の法律闘爭に進む私共の主張は、法廷戦其のものの意義を強調するばかりで無く、判決の結果をも勝利する事が有り得るのである。

ここに、私共は、ブルヂョア階級の勝手に制定した現行法律の×××××、×××、×××××××××××××を期して法廷戦攻勢の原告として起つ場合があるのである、とは云ふても、階級闘爭の先驅を任じて、其の犧牲を献ずる勇敢な法廷戦への進出には、どこの陣營にもある「屍を履んで」の覺悟を以て起つ攻勢原告の法廷戦に於て勝敗のいづれにも有意義を期して居るのである。

× ×

其の實證は、社會立法の名を以て、近來漸く制定せられた借地借家法や、又、マサに制定せられんとする小作法等内容不完全の批判は暫く措き、假りに、名義のみの借地借家權及耕作權の第三者對抗なりと云へども、之れを認めしむる迄には、幾度びか其の借地借家權乃至、耕作權の確立を法廷戦に闘爭して容れられざりし敗訴判決の屍が積み重ねて居るか知れない事でも判かるであらう。彼の雄々しい階級闘爭勝利の過程には、先驅の犧牲を献じた闘士の屍が累々として居るのであるが、其の「屍を履んで」進んだ闘士の手に高く掲げらるるものこそは、實に、××××××××××××××××××、勝敗兩樣の要意を期した法廷戦の有意義である。

一兵卒から聯隊長への謝罪文請求事件として、其の判決の勝敗如何に社會の注目を集めた本事件の内容と經過に含む有意義も亦、一ト度び敗れても二タ度び戦ひ、二タ度び敗るれば、三度び戦ひ、四度び、五度び敗れても最後の勝利を得る迄は、敗訴判決の「屍を履んで」、其の闘爭を進出せんとする所にあるのである。之れ、私が、此の小稿に「屍を履んで」と題した所以である。

× ×

今本事件の大要を概説すると、其の内容は後ちに、詳述する通り、「過失の事實あつて責任なし」と云ふ事に結論せらるべきや否やの現行法律解釋に其の意義を求めて居るのであるが、時の現行法律は、必ずしも、事件批判の最高權威では無い、眞の批判の最高權威は、時の進化である、時の進化の必然の理法である。其の時の進化の必然の理法が、最高の權威を以て問題の事件を裁くばかりで無く、問題の事件を裁くと共に、問題の事件を裁いた判決をも裁くのである。斯くして、時の誤れる法律に裁かれた敗訴判決が、其の敗訴判決を言渡した法律を裁いて、之れを改廢する所に、敗訴の「屍を履んで」法廷戦を挑む私共の要意が、本事件の内容的有意義である。

次ぎに、法律は、常に、時代の社會正義を象徴するもので、裁判は必ず公平冷靜に時の民意を容れるものであつたら、本事件は必勝したであらう。否、本事件が必勝したであらうと云ふよりも、左樣した法律の制定と裁判の確立せらるる私共の社會であつたら、決して、斯うした問題が起らなかつたであらう、假りに問題が起つても、事件とせずに彼等は屈服したであらう事を私は疑はないにも、拘らず、彼等が敢へて、社會正義を象徴せざる現行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法に依らざる組織と之に反對して、行はれた時の組織に、公平に依らしい、正義を破壊して、時の能率化と共に進化を遂げんとするの本事件の重大意義があるのである。

×　×

私は、左に以上概説した本事件の内容と經過とを公開する、事實は簡單明瞭である。

一、原告青谷誠次郎は大正四年十二月一日宇都宮野砲兵第二十聯隊に入營し大正七年十一月二十六日豫備役に編入せられ、一等卒として大正十五年五月十四日勤務演習の爲めに召集を受け、前日西那須野驛前の旅館に投宿し、翌日所定の聯隊に集合し、役に勤務した世田ケ谷野砲兵第一聯隊に召集せられた、同年六月四日所定の時の手續を經て、一分も遲れず、々其の部下と勤務したのである。

めて中隊に勤務したのである。

に、其の部下と勤務した後、演習勤務に服し、一應然るを居る所、原告青谷誠次郎の勤務は、演習後不應召者として分隊に報告せられ、之を除隊の後、直ちに不應召被疑事件として取調べ、原告の不應召を直ちに取調べに及んだと云ふ。全然原告の事件は、除隊後、不應召として分隊の取調べに甲府で、郎の不應召被疑事件は直ちに取調べ、甲、たそして其の自宅は勿論、郷里迄も搜索したが、本隊下の親戚等迄も搜索したが、現に兵營內に應召勤務して居るものを

不應召者として、兵營外に搜索しても之れを搜し當てやう筈が無い、家族親戚等は、百方搜索の勞を費し、憲兵隊よりも搜索され、其の間、兵等には、不都合な者と罵られて、近隣親族からも、兵の不應召の國賊と罵られた不名譽の苦痛は、人間に非難せられた不名譽の苦痛は、甚だ忍び難きものがある」と云ふのである。

斯うした事實を具して其の救濟方を相談せられた私は、直感し、考察し、調査して結論した。

×　×

苟くも、嚴正周到秋霜の誤謬失態を甘くしなければならない軍務當局は、其の部下として應召した者の日數、氏名、勤務狀態等を監視指導すると同時に、國家に對する職務である、と同時に、應召する兵卒に左様な職務上の義務を負ふ公式的軍務の對手として、應召する職務上の人格的個人義務である。

にも拘らず、原告青谷が現に、其の部下として應召勤務して居る事實を無視遺忘し、之を不應召者とした事實は、許すべからざる過誤失態である、而已ならず、之を憲兵隊に報告して、家族親族等に百方搜索の勞費を損せしめ、作ら、之に償ふ不名譽を慰めやうともせず、非國民呼はりの不名譽を慰めやうともせず、恬然、知らざるものの如くにして居ると云ふ事は、如何に軍隊內に於ける上官下兵の出來事なりと云へども、

斷じて看過し得ない。殊に、軍隊內に現在の紀律は、上官の横暴の壓迫に、裏面の要領に迎合して、横暴なる上官と、正直なる下兵との間に默從を強ひしめらるる兵士の趨勢から、其の悲慘なる狀態の緊張なりと見て紀彈の必要がある。

×　×

更らに、青谷誠次郎の激情は、其の後の經過を叙して云ふ、何人にも必無の人事の不注意として、謝罪を期し得ない人事の不注意として、謝罪すべきものであるに、上官の一言の下にも、どんな事があつても、兵は述べられぬ微かな下兵は、述べられて抗議し得ない事であつて、上官の命令の前に、自分の之れを察し、反抗することを許し、命令的に損害の如きを容易に棄つるや、議するや、損害の金額を徴收し得ず、現に、損害の負擔を避け、てたら、之を招致し、紀律の破壞を自ら弁じた理由の爲に、彼等に招致した態度は、百方の手段を附した親戚等の金を投じ、手段を以て、軍務に委ねた紀律を、精神では無い、正義の手段に燃えて居る。彼等の態度は、無念に燃えて居るものの精神である。することも無いと云ふ、彼等を追窮したいと云ふ念に燃えて居た。

然かも、原告青谷の彼等を追窮せんとする心事は、國家の正義を信んずるが故なりし事は、ここに、之を明記して置かなければならない。夫れは、斯うした過誤失態を演じて居り乍ら、損害を掛けても、之を償ふやうともしない、夫れは、斯う損害を掛けて居りなから、之を償ひ慰めやうとも、國家は無情にも程である、多大の苦痛を、今日の國家は償ふ事も、敢へて之を償ふやうとも、軍人長官もそれない。又、軍人は無情である。程横暴なる國家の國民たる軍人の遭遇する事は無いのでもなく、も拘らず、國家の國民に對する軍人の遭遇する事は無い。

情を斟酌して、原告青谷の激情に對し、度を過ぐるの決意牢固たるものがあつたのである。寧ろ被告等を責めたい、と叫ぶ訴訟の提起の決意に接した。

私は、原告青谷の激情に、當事者が、冷静に本人として當然さが認められても、第三者として、以上の事實を如何に、嚴正周到に考察すべきであらうか、どうせねばならない、軍務を取扱ふ者の過誤を、人間として取扱ふべきものと信じた。

して、云へば、失態の無き事を期し、人間の取扱ひを期し、あつても、無きを期して、其の解決のすべき問題である、と云ふ人間の問題として取扱ふべきものと信じた。

×　×

そこで、私は、西那須野の出張所に、相當の手續を經て、人間としての事件の解決に當り、その爲に、損害を償はしめん事を、田中(?)の手紙を、其の交渉に、一、西那須野の人を出し、財の償ひを求めたが、責任者の交渉の結果、其の誤を認め、損害を償ふことを、其の交渉をした恐らくは見た。所が斯うした、西那須野の出張所の主任の返事は、無い、然かも、私の手紙に對する返事も、人間らしい返事も無い、其の交渉に對しても、一人の兵隊に何んの手紙も無い、實に冷淡なものであ

る。

と、云ふて、私は、交渉の任に當つたものが、其の後、交渉の任に當つた本件の責任者の、直接面會するために、イサカカの交渉の所の見解を述べたが、少佐は、兵は無くて、交渉の本件の態度を決定した、其の見解を述べた私の見解に異論を唱ふるものは無かつた。けれ

ども、愈々西郷森田兩人の意見を確めると、彼等は、自分の過誤失態の爲めに、青谷の傷けられた苦痛と損害を償ふとは云はず、自發任意に投げ與ふる意味に於て金一封を受けよ、然らざれば軍隊の威信が傷くからと云ふ回答に原告青谷は左樣した西郷森田の態度を甚だ不滿とし、而已ならず、失費損害額三〇七圓の計算書を認めずと云ふ無誠意を憤りて、示談は終に決裂したのである。

× ×

此の間の經過を仄聞すると、西郷森田は、自分等の過誤失態について、人間的に責めらるるものありとしても、其の人間的に責めらるる事は、如何に責められても、自ら之を承認しない限り强制せられる事は無いと、同時に、自ら承認しない限り强制せらるるかどうかは、法律上の義務があるか無いかで決定する、言ひ換へれば、今日の法律が之を許すか許さないかと云ふ事に依つて決定する。

人間的にも社會的にも當然責められねばならない事ではあつても、今日の法律が之れを强制しなければ責められずに濟むのである。云はば、免れて恥なしと云ふ態度がとれるのである。と云ふ事を研究鑑定したらしい。

之れ私が、前に本事件經過の重大意義を指摘して、時代の進化と共に成長した社會正義を破壞せんとする彼等の態度を糺彈しなければ爲らないと云ふ所以である。

× ×

斯くして本事件示談交渉の決裂は、眞に「屍を履んで」と云ふ覺悟の下に「被告西郷豐彦は第一師團世田ケ谷砲兵第一聯隊長、被告森田龜太郎は其の聯隊書記に在職し、其の部下として應召したる後備勤務應召者の員數氏名勤務狀態を嚴正周到に指導し、且つ、之れを監視する職務上の個人的義務あるに拘らず、敢へて其の義務を怠り、不注意にも、貴殿の後備勤務應召したる事實を脫漏遺忘し後備勤務不應召者として處分を請求し依つて貴殿名譽を毀損したるのみならず、多大の損害を被らしめたる段、誠に申譯無之今後軍務の嚴正を戒むる爲め、茲に謝罪狀を呈して謝罪の誠意を表す」と、云ふ謝罪文請求の訴訟を提起するの止むなきに至つたのである。

× ×

すると、被告西郷森田は、帝國辯護士會の一流民事大家岸清一博士を主席に、木村、遠藤二辯護士を訴訟代理人として、

一、原告が『野砲兵後備一等卒なること及び大正十五年五月十四日勤務演習の爲め野砲兵第一聯隊に召集せられたる事、並に被告西郷豐彦が同聯隊長にして被告森田龜太郎が同聯隊書記なる事』は爭はず。

二、原告は『被告等は後備勤務者の員數氏名勤務狀態等に付嚴正周到の監視と指導とを爲す職務上の個人的義務と責任とを有す』と主張すれども右の義務は被告等が帝國軍人として國家に對し負擔する所謂公法的義務にして、被告等は國家以外の何人に對しても斯の如き公法的義務を負擔するものに非らず、況んや個人的義務に於てをや。

三、原告は、現に被告等の部下として後備勤務に應召し所定の勤務演習に服し居たる原告を不應召者として取扱を爲すに至りたる顚末左の如し。

大正十五年五月十四日召集當日應召者を聯隊の營庭に集合せしめ、聯隊副官監督の下に豫め準備したる名簿に依り、被告森田龜太郎外一人の聯隊書記が、各應召者を點呼し被告森田龜太郎は「青谷誠次郎第五中隊」と三度高聲に呼上げたるに返事なかりしを以て、召集に應ぜざるものと看做し名簿中原告の氏名の上に不應の印を附し聯隊副官に報告を爲したり。

と答辯し、尚ほ、法廷辯論に於て、裁判長より任意和解を勸告せらるるや、本件の背後に反軍國思想を唆るものありと認むるが故に、被告等本人よりも陸軍大臣が本事件の和解を欲せずと附言した。而して、一旦被告代理辯護士は、第二回口頭辯論期日に和解の爲めの本人同行を約し乍ら、終に之を果さざりしも、私は、被告等軍務行動中の嚴正周到を求むるに一歩も假籍せざる態度を持し乍らも、被告等の誠意ある態度を寛恕するに吝ならず、裁判所の和解勸告にも本人同行し、當時の實狀を具申して裁判所の心證に資供する事を怠らなかつた。

夫れでも、裁判所では、被告等の事實及法律抗辯に就て、原告側の釋明を求めたいと云ふ事だつたので、私は左の如き準備書面を以て裁判所の求めに應じた。

『本件原告の主張と被告等の答辯とに依る事實及法律上の爭點について原告は其の主張を明確にする爲めに準備書面を以て左に被告の答辯を反駁する。

被告等は原告本訴主張事實の要點たる大正十五年五月十四日原告が被告等の部下として應召したる後備勤務事實を無視し、一時不應召者として取扱ひたる事は被告等も之れを認めて居り乍ら原告を一時不應召者として取扱つたのは、被告森田が當日「應召者の氏名を呼び上げた際原告が返辭を爲さざりしが爲めなり」と云ふ事を答辯して居る、故に本訴事實上の爭點は左樣した被告等の答辯を容認すべきか否やと云ふ事に係るのであるが、原告は現に應召出頭して居る原告森田に其の氏名を呼び上げられても返事を爲さざりしなどと云ふ事は、應召出頭者を目前に置いて施行する軍隊點呼に於て絕對に有り得べからざる答辯である事を反駁する況んや原告は其の應召氏名點呼に返辭して應召出頭を認められたるが故

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に名票の交付も受け所屬部隊の指定も受け寢臺も炊事もの配分にも洩れず、立派に應召出頭者として後備勤務に服して居た事實は之を證據立てて居るのだから、被告等が斯うした原告の應召事實を遺忘無視し一時不應召者として取扱ひたる事實を認めて居り乍ら、敢へて其の原因が原告が應召者點呼の際返事を爲さざりしが爲なりと云ふが如き責任逃れの答辯をするのは、餘りにも卑怯である事を更らに被告等に追窮する。

次ぎは以上の事實に關係が被告等の後備勤務應召者員數氏名勤務狀態等に付き、嚴正周到の監視と指導とを爲す職務上の個人的義務違背に爲る、と同時に被告等に左樣した職務上の義務違背に依りて原告に被むらしめたる有形無形の損害を賠償する責任ありと云ふ本訴原告主張に就ても亦被告等は其の前半の「被告等に後備勤務應召者員數氏名勤務狀態を嚴正周到に監視指導する義務の在る事は之れを認めて居り乍ら、其の後半の責任論に關し、被告等が其の前半の義務を認むるのは帝國軍人としての國家に對する公法的義務であつて、國家以外の何人にも負ふ所の義務では無い」。と云ふ義務範圍論と其の義務範圍外の行爲に關しては、他に如何なる損害を加ふる事あるも無責任なりと云ふ事を答辯して居る。故に本訴法律上の爭點は左樣した被告等軍人無責任論を容認すべきや否やに係るのである。爰點に關する原告の主張は、既に訴狀に於て職務上の個人的義務責任を問ふものである事を明確にして居るのであるから、被告等は十分之れを諒解して居らない樣に思はれるから左に其の要旨を釋明して被告等の答辯を反駁する。

1、被告等の答辯書を見ると「被告等は帝國軍人として」と云ふ事が書かれて居て、所謂帝國軍人は一種特別な權力機關として其の軍務執行關係に基く行爲に就ては他に如何なる損害を加ふる事があるも全然無責任なるもの如くに考へて居るらしい。が、原告は所謂帝國軍人と云へども文武の區別がある丈けで所謂軍務關係に基く行爲の責任有無は一般官吏の職務執行干系に基く過誤失態の責任論と別に異なるものでは無いと云ふ事を本訴主張の前提として居るのである。而して、此の前提は所謂帝國軍人の所謂武官であると云ふ點に於て何人も承認すべきものと思料する。

2、既に一般官吏の職務執行に基く過誤失態の責任論を被告等所謂帝國軍人にも適用すべきものとすれば、官吏の性質に關する學說の趨向は一般官吏を以て單なる國家の機關若くは單なる國家即職務執行の機關とは認めず、官吏は一面國家の機關として、國務即ち職務執行の任に當たると同時に、其の國務即ち職務を執行する人格者として、官吏の人格を認むる事になつて居るのである。敢へて、爰點を玆に詳論はしないが、其の爲に官吏を人格者として其の人格を認むる文武官吏の資格に就て官吏たるべきものの個性を充實整備しなければならない任用條件が必要とせられて居る事を參照したら何人と云へども斯うした學說の趨向を認めない譯には行くまい。

原告の本訴で主張する被告等職務上の個人的義務と云ふ責任論の根據は爰點に置いて居るのである。即ち被告等は所謂帝國軍人たる武官として國家には其の國勢即軍務――被告本訴主張に云ふ部下後備執務應召者の員數氏名勤務狀態苟くも過誤なき職務執行の對國家的公法義務を有すると同時に、左樣した軍務即ち職務執行の相手たるべき一般國民に對し――之れを本訴に就て云へば被告等が後備勤務應召者の員數氏名勤務狀態を監視指導して後備勤務應召者に其の後備勤務應召義務を安んじて果たさしむべき嚴正周到な注意を怠つては爲らない、職務上の個人的義務を有すると云ふ事を主張するのである。而して、原告の斯うした主張、ち被告等職務上の個人的義務を有する法律上の根據は前に一言した通り、官吏の人格を認むる一般學說の趨向からも亦、人間意識からも社會常識からも必然當然に肯定せらるべきものとして、現行法制の隨所に認めらるる人格權の本質及其の反映に置くのである。從つて、被告等は現に被告等の過誤失態に依る原告の無形に受けた非國民呼ばりの精神的苦痛と、有形に受けた搜索費用の損害とがあつても、それは、所謂帝國軍人としての軍務即ち、職務執行に基く苦痛と損害だから賠償するに及ばない、斬り捨て御免の無責任だと云ふが如き答辯は、假令軍人としての職務關係に基くものであつても、夫れが苟くも人格者としての自然人たる被告等不注意の過失に基くものである限り、斷じて今日の人間意識と法律智識の許さざる放言である事を反駁する。」

以上原告側の本事件に對する主張は只だに裁判所の愼重な考慮を求むるばかりでは無く、廣く、社會一般大衆の愼重に考慮して深刻に批判せられたい社會國家正義の問題である。社會正義未だ確立せずして國家の權力單り强く官吏の過誤失態は、如何に其の爲の苦痛と損害とに泣くものがあつても、斬り捨て御免の賠償慰籍なしとする勝訴の判決は、果して社會一般大衆の迎ふる所であらうか？　夫れとも、左樣した敗訴判決の屍を履んで、社會正義の確立の爲めに戰ふものを應援するであらうか？

私は、本事件關係者の一人として、本事件の內容と經過に含む重大意義は判決の勝敗如何よりも、其の判決を通した一般大衆の深刻な批判を徹底した最後の勝利を信んずるものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戯曲　ストライキ（3）

下山利基智

第二幕　第一場　工場

舞臺　第二の幕がきり〲と切り離る。こゝは食堂である——隅の方に食卓數個位と腰掛が數個雜々に片付けられてある。十人許りの男女工幹部靜かに登場す。中央に會長席を設き各自机や腰掛を持ち出して圓型に席に着く。時計は正に午後一時を打たんとして居る。やがて職工組合長が眼鏡の玉を拭き乍ら登場す。

職工長、席に着くと一同を見廻し乍ら、

職工長＝私が昨日警察署に招かれて此度のストライキに對して種々の訓示を受けました。今私より諸君に其の訓示を報告致します。私が昨日工場が退けて家に歸へる時でした警察署の給仕が私の後を追つて來て直ぐ警察署に出頭を命ぜられたのです——尤も警察の呼出し位は承知致して居りましたが——私が警察署に着いたのは丁度四時でした、署長室には專務の相浦さんも來て居り何かひそ〱と署長と相談して居りました。そして私はすぐ刑事室へ呼ばれたのです——そして色々と私達の此度のストライキ斷行策を聞きなじつたのです——然し諸君！　安心されよ！　私は決して私達の宣戰を彼等××××××××であらうか——後に某氏より聞けば警察署員は全部會社より××を與へられたさうです——諸君！　彼等は私達のストライキを切り崩さんとしてあせつて居るのです——有らゆる情實的手段を以て——然し乍ら諸君！私達の結束が如何に確固たるかを彼等に示す時が——機會が來たのです——私は警察署で何も云ひませんでした刑事が最後に私に示したストライキに對して制限した規則を今、朗讀致しますからお聞き下さい。

一、ストライキは我が村に始めて付き最も愼重なる態度にて行ふ事。

一、示威行列は行はざる事。

一、集團して勞働歌を高唱せざる事。

一、人心の恐威的行動及び社會の秩序を醸するが如き行動を禁す。

一、組合員以外の團員のストライキ加盟を禁す。

一、組合旗以外の旗旗を禁ず（但し組合旗に槍は付けざる事）。

以上は固く相守る樣心得るべし、若し該事項に違反する者之有る時は其の筋に於て誰彼を問はず檢束すべし、然して檢束を受けたる者は三日間乃至五日間の禁錮に處すべし。

（讀み了はると組合長は一同を見廻し乍ら微笑を浮ぶ——其時中央の席に着ける一人の幹部身を起して一同を眺め乍ら——）

幹部の一＝組合長へ一寸お聞き致しますが組合長は其の警察署より示された規定書に對して承認して了つたのですか！（眼は異樣に輝き顏は血走つて兩手は拳を握つて居る）それとも？

組合長＝町田君！（今組合長に質問した幹部に向つて）及び諸君！　僕は諸君の生命を彼等××××××賣る迄に墮落しては居ようか——諸君の目に僕の精神が左樣に見へますか——諸君！　どうして僕が諸君を彼等に其の生命を賣られようぞ——只僕の最も恐怖に耐えないのは僕達同志の仲間に彼等に內通する者があるとの事である——實になげかはしい事である——諸君！　僕は諸君を信じて居りました——然し僕は諸君の或る一部の者に完全に裏切られて居る事を認めたのです——若し諸君の中に何かの心得違ひをして僕達の同胞を彼等に賣つて居る力がありましたらどうぞ心を入替えて僕達の爲めに兄弟姉妹の爲めに奮闘して戴きたいのです。（云ひ了はると組合長は一同を一廻り見渡して吐息をつく）

幹部の一＝組合長！　（憤怒の色を表して）其の——其の裏切者は誰です！

幹部の二＝組合長！（兩手は握りしめられ身體は震へ眼は輝き——）其の裏切り者は誰かをお教え下さい——僕達の兄弟を賣る奴はどこに居るんです！

（殘つた男女の幹部異口同音に其の裏切り者の指名を組合長になじる——食堂內漸く騷々しくなる——やがて沈默に返り人々の動作は緊張して居る）

組合長＝諸君！僕は今玆で其の裏切者を說明する事は出來ない！

幹部の三＝組合長！なぜです？何故其の裏切者をお知らせ下さる事が出來ないんですか。

組合長＝諸君！先づ靜まられよ、諸君は先づ第一に其の裏切者を聞いてどうするんですか——（組合長の顏は益々溫和になつて冷靜に返る）——然し諸君！僕は諸君の心持は知つて居ります——然し諸君は彼の氏名を聞いて彼を責めたとて何になりませうや——諸君が彼の精神を責め肉體を責めて居る間僕達のストライキは停止して居るではないか——裏切者の處分！そんな事は僕達の目に入れて置く必要はない——僕達は眞理を求めんとする同志と共に何も彼も打ち捨てゝ——仕方がない一人二人の裏切者は出ても——凡ての犧牲を拂つ

て一意專心元のストライキを斷行しなければならない、──一人二人の反對者が何にならうぞ──我等の社會建設は前途洋々ではないか──（幹部一同は組合長の心臓に敬服して居る面持にて組合長を凝視して居る）──次に諸君達の各部員のストライキ斷行に對しての意見の消息を聞き度いと思つて居ります先づ第一に安彦キミエさん、部員は加盟して下さいますか。

キミエ＝妾の方？……エヽ──妾の方は大丈夫ですの──明日からでも罷業は斷行される様になつて居りますわ──（希望に輝く目をする）

組合長＝田川君の方はどうですかね。

田川＝僕の方ですか──僕の方は未だ判然たる見込はついてゐませんが大丈夫だらうと思つて居ります──最一度今夜僕の下宿で會合がある事になつて居りますがね──僕の方は僕が絶對的に取りまとめます。

組合長＝西本君の方は──

西本＝僕の方は大丈夫です──明日からでも罷業の準備はなつて居ります。

組合長＝では──諸君！ 明日此の食堂でお晝の時間を利用して職工大會を開催致しますから諸君の各係員及び全職工に報告をお願ひ致します。

──（時に二時を打つ──工場の鐘カラン〳〵となり始業の準備は用意されて──遠くの室からはインヂンの音が唸り出す──組合長及び一同靜かに退場──）

──（幕）──第二場次號へ──

隨筆 狂人狂語

吉田金重

ぼか〳〵と暖かくなつて來ると、のどかな地方の生活が、そしてその光景が眼のあたりに浮かぶ。水はしやあ〳〵と谷川にせゝらぎ、小鳥はちゝと嬉しさうに囀りながら山野を飛び交ひ、麥は青々と畝をなしてのび、すべては自然に生長して行くかのやう──そこには十八九年も昔に死くなつた父の面影がある今は七十の坂を杖を突いて越さうとしてゐる、母の老ひの姿がある、孜々としてたゆみのない兄妹がある、勤勉な叔父が、數多い從姉、從弟妹がある。また仲の好かりし友達のJ・Hなぞがゐる。いや、兄の子を背中に括りつけられたら、牛を追つたり、草籠を背負ひながらも、何ものかを求めてやまない、憧憬そのものゝ如き自分が──しかし、それらはすべて、私が年少の頃の夢か！

たゞ私は賦を繰り返す──㊀年々歳々花相似、歳々年々人不同──と。

小川未明氏の話によると越後の高田在はこの四月に入つたにもかゝはらず、一間もの高い雪に閉ぢ籠められてゐるとか、昨冬のあの大雪の責苦から、この春酣な今もつて解放されない東北地方の人達は氣の毒だ。しかしまた、それも考へやうではある、私らも既に東京で經驗したことではあるが、あの西北地方に繰り返し起こる震火災は、そして、それを蒙つた人達の惨状に較べたなら──自然もちよつと見は美しいが、こゝに至つてはその心底のほどが恐ろしい限りだ。日本は早晩、太平洋と日本海との間に陥沒する──なぞ、米國のある婦人は占つたとか、科學的に發見したとか？ これとてまんざら根據のないことでもなからう、地球の冷却や、壊滅さへ研究される現代に於て。

曾て自然科學は、一般生物の祖先をアミーバーに求め、人類の祖先を、猿に求め得たかの如く、色々と、緻密な例證をあげて教へてゐる。私らは無條件にそれを信じていゝものか、悪いものかを穿鑿する前に、おの〳〵の生物は生存の適する方向に發達をとげるが故に、そして、生存に適するもののみが生き殘り、生存に適しないものは滅び行き──所謂、自然淘汰されると説明するまではいゝが、これがたゞちに人類の進化の理に牽強附會し、自由競爭にまで押進めなければならないところに、自然科學の悲哀を發見する、誤られたる自然科學の斷末魔の呻きを見のがすことは出來ないのである。これは人類の正しい自然生長と、正しからざる目的意識を曲解したものである、自然科學は一般人類の共存に於てこそ、よくその價値を發見されはするが、特殊な人類の生存にのみ利用される時、より無價値といふよりむしろ、人類全體の破壊的役目しか演じないであらう。私らはこゝに、このアナクロニズムた自然科學を破壊すると等しく、眞理に徹した自然科學を探究し、建設しなければならない。

私らは自然を征服することの、自然に反逆することの無意味であることを知つてゐる、なぜかなら、自分が既に自然とゝもに生長しつゝ、また滅び行く運命を背負はされてゐるからだ。したがつて私らは、自然に順應するといふよりもむしろ、自然とゝもにあるといつた方が正しい、だからすべての行動も、思想も自然的に正しくなければならない、そこにまた、正しい目的意識も生じて來る譯だ。

氣候の故か、私は少からず逆上してゐるやうだ、だがしかし、社會と思想に對する信念の脈搏に於て、どこまでも謙虚であるのだ。

勞働運動講座

伊太利の勞働運動

淺野研眞

第一節 序説

ラテン文化の源泉の國、ローマをその首都とする伊太利は、極めて古い文化を持つてゐるが、現代の伊太利は、必ずしも強大なる帝國主義國家ではない。いな、むしろ一個の反動的政府をさへ持つてゐるのである。

伊太利の國民の大多數は、今尚ほ農民である。そして特に南部地方の農民には、無學なものが多い。北部地方の農民は比較的に進歩せるものであつて消費組合や勞働組合も相當に發達してゐる。然し南部地方の農民は、貧困であり、屈從的であり、且つ無學であるがために、殆んど中世紀的な狀態を脫却して居ないとさへ云はれてゐる。

第二節 初期の無産者運動

イタリーに於ける近世的プロレタリア解放運動の先驅者は、マチニーであつた。彼は青年運動を主とした。そしてインタナシ・ナル（第一）の初めの内はマルクスと對抗するほどの勢力をさへ持つてゐた人である。然し全く近代化された思想の所有者ではなかつた。

一八六四年、ロンドンに創立されたインタナシ・ナルの運動の影響は全たく多きなものであつた。バクーニンはその支部を一八六七年にナポリに設立した。然し後ちインタナシ・ナルは分裂したが、伊太利支部は多くバクーニンを支持して、マルクスに抗した。一時はバクーニンの勢力は、甚だ大なるものがあつた。

然るに、やがてマルクス派の運動が地盤を得て來た。一八八五年にはミラノに『伊太利勞働黨』が現れた。これは翌八六年に政府によつて解散を命ぜられたが、伊太利の最初のプロレタリア政黨であつた。次いで一八九一年及び九二年に、ミラノ及びゼノアに於て社會主義者の大會が開かれて、新たに『勞働黨』なるものが設立された。そして翌九三年には、レッチ・オエミリアの大會に於て、『勞働黨』中の社會主義派は明らかに社會主義的態度を採用することに決し、かくて『伊太利社會黨』は設立された。これこそ現在の伊太利社會黨の起りである。

第三節 世界大戰まで

一、社會黨の成長

伊太利社會黨は、最初に改良派のフィリッポ・ツラチ一派と、革命派だつたエンリコ・フェリー一派との對抗を生んだ。然るに更に最左翼のサンヂカリストが生れた。そして極端派はアルツロ・ラブリオラが指導者であつた。

今、社會黨の投票狀態を見るに、一八九二年の總選擧には二六、〇〇〇票と六名の代議士を得た。以後の諸選擧に於ては、急速なる增加が示されて、一九〇〇年には一七五、〇〇〇票と三二名の代議士とを得てゐる。この時には、急進黨と共和黨とが聯合したのによつたのである。また一九〇四年の總選擧に於ては、三二〇、〇〇〇票を有したが、議員は二七名に減じた。

一九〇六年の選擧には、內部の論爭のために、三十名の代議士が議席を退くことになり、二十五名は改選された。此年の黨の會議では、社會主義者は、二六、五四七票に對する五、二七八票で以て、サンヂカリストを敗北せしめた。かくてサンヂカリストは黨を脫退することになつた。

一九〇九年の選擧に於ては、三三八、八六五票を得て、四十名を選出した。

また一方に於ては、正統派マルクス主義者と修正派との間に論爭が斷へないで、一九一〇年には、ミラノに於ける選擧狀態に於て、ツラチ派は一二一、九九四票で最高點を得、革命黨は六、〇五四票、中間派は四、六二四票を得、共に敗北してゐる。

二、トリポリ戰爭と社會黨

伊太利社會黨史上の一つの主要事項は、トリポリ戰爭の時に起つた。即ち此時、社會黨內に軋轢が生じた。當時の政府は社會主義者によつて支持されてゐたが、若干の躊躇の後、彼等の一部分は政府を却いた。改良派の領袖ビソラチ（Bissolati）以下若干名は黨を除名された。この一派は一千名の會員より成る社會改良黨を組織した。フェリーは主としてトリポリ政策を支持してゐたが、一九一二年には其席を辭し一私人として當選した。（尙ほフェリーはプロレタリア犯罪學の建設者として有名である）。このフェリーの脫黨の如きも、正に斷へざる黨の內部的軋轢の一證據であると云へやう。

三、社會黨の分子

當時の伊太利社會黨は、むしろ中產階級的な性質のものであつた。そして其指導者の如きも、商業教育を受けた知識階級出身者よりも、手工業階級出身者が多かつた。即ち一九〇四年の如きは、約半數が其れであつた。また新進思想家や藝術家は、多く社會主義運動を支持するものであるが、伊太利に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

於ては、これと反對で、ダヌンチオの如き文學者は、熱情的愛國主義者として、反動的なファスシスト黨に屬してゐるのである。(日本も此の例には乏しくなく、正に好一對である)。

四、歐洲大戰の勃發と社會黨

一九一四年八月、歐洲戰亂は勃發した。この時、社會黨員は直ちにミラノに會合して參戰反對の決議をなした。伊太利が三國同盟に背いて中立を宣言したのは、この運動の影響が與つて大なるものがあつたと云ふ。一九一五年に至り遂に伊太利も參戰したが、社會黨は依然として非戰運動を續けた。

第四節　大戰以後

一、社會黨の趨勢

一九一九年の選擧には、社會黨は三百萬の投票を得、代議士は前の四十四人から、一躍して百五十六人に上つた。これは非戰主義と革命主義のプログラムによつて成功したものであつた。

玆に伊太利社會黨の消長の統計を戰前より總括して示せば、大體に於て次の如きものである。

選擧年	投票數	議員數
一八九二年	二六、〇〇〇	六
一八九七年	―	一六
一九〇〇年	一七五、〇〇〇	三三
一九〇四年	三二〇、〇〇〇	二七
一九〇九年	三三八、八六五	四一
一九一三年	―	五二
一九一九年	三、〇〇〇、〇〇〇	一五六
一九二一年	―	一二〇

(註)この統計は餘り正確なものでない。

二、共產黨の成立

一九二一年一月、伊太利共產黨は成立した。この黨は最も強くファシスト政府に反抗して立つてゐるものである。一九二一年の總選擧には十二名を選出した。また一九二四年の四月の其れには、ファシストの反動政策により、社會黨は非常なる減少を來したにも拘らず、共產黨のみは增加して十七名の議員を持つことになつた。

三、ファシスト黨

一九二二年、伊太利の政界は極度の混亂を來し、遂に反動政權の確立を見るに至つた。即ち十月二十六日、三萬のファシスト黨は、ベニート・ムソリニ(Benito Mussolini, 1885――)を首領として、ナポリからローマを指して進軍した。越えて二十九日、皇帝は遂にムソリニをして組閣せしめた。そこでムソリニは獨裁制を以て內閣を引受け、反動政策と社會政策とを取りまぜて、目下の伊太利を完全にその支配下に置いてゐる。

因に、黨名のファシストは、その黨員が各自、古代ローマの束桿(Fasces)樣の混棒を所持してゐることから發してゐる。そして其の主張はファシスト主義(Fascismo)と稱せられてゐる。

ファシスト黨は、勞働者の工場占領や、產業的紛騷や、總同盟罷工の場合には、猛烈なる逆襲をなしたものであるが、一方に於ては、所謂社會政策を實施してゐる。(完)

鈴ケ森だより

編輯室より

□本誌は、四、五、六の三ケ月、體裁を菊判とし、將來共其の體裁を繼續する積りであつたが、全國の支局及び讀者より、判の小さいのは戰鬪氣分を失する嫌がある。『進め』は矢張り『進め』らしく大きい方が良いと、殆んど毎日のやうに、判を大きくするやう希望されるので止むなく、玆に大衆の要求に從ひ、今月より元の四六倍判を以て諸君に見ゆる。

□前號は突如、發賣禁止を喰つた。田中反動內閣最初の小手調べと思はれる田中義一に依る反動政治の亂舞は、今後如何に展開されて行くか？此の軍閥×××××××日本の無產階級は×××、彼等と抗爭せよ！(編輯子)

健かに戰へ！

□癪にさわるのは彼れ田中義一だ！彼れの面はムツソリーニの面に彷彿してゐる。厭な面構へではある。高島易斷師曰く「どうも田中さんの面には××の相が現はれてゐる……」。田中よ×××××、以て×××××。アーメン。

□近頃、進め社に壯擧を見ない。だが×××××、×××××は活氣潑溂たる進め同人の胸三寸。敢えて言はず敢えて語らず、

□僕は四月に本部入りをした。一寸披露に及ぶ。生れは琵琶湖畔、學淺くして小僧から職工、轉々七年。昨秋、其の筋の怒を買つて一味六名入獄。だが勿驚タッタ十日間にして、恩典とやらで娑婆へ歸つた。諸兄の鞭韃を得て、今日に及ぶ。元氣益々旺盛、今後の奮鬪を誓ふ。

□メーデー去つて五十日、櫻の葉も黑ずんで來た。土臭い嗅がプンと鼻を衝く、蒸し熱い。然し、×××××戰鬪意識は依然たり。同志諸君の健鬪を祈る。(太田)

來たれ彈壓

□學生事件に對する峻烈なる科刑を見よ！勞、農爭議に對する酷烈なる彈壓振りを見よ！此れ實に彼等の我々に對する×××××××××表現でなくて何んだ。彼等の此の意識的暴壓、計畫的迫害は我等の戰線の擴大して行くに從つて、ヨリ加重するであらう、來たれ！××。來たれ！×××。我等は×××、×××進まん。(工藤)

腕で來い

□プロ文士と稱する者の、盲目蛇に怖ぢざる態度は笑止千萬、筆の先ばかりで勝手な熱を吹いてゐると、お見舞するものがある。

□吾等は、筆の先ばかりの喧嘩を欲しない。吾等は××××××××××ではない。腕の相談ならば何時でも相手になつてやる。(安村)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上野 銀座

松坂屋呉服店

婦人良薬

喜谷實母散

產前、產後、血の道、引風、冷込等に特効有

▲全國到る處に販賣す

本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋五五番 五六番

明日と云はれず
今直ぐに

大同生命
大阪土佐堀

効力も
火持も
無害も

一等

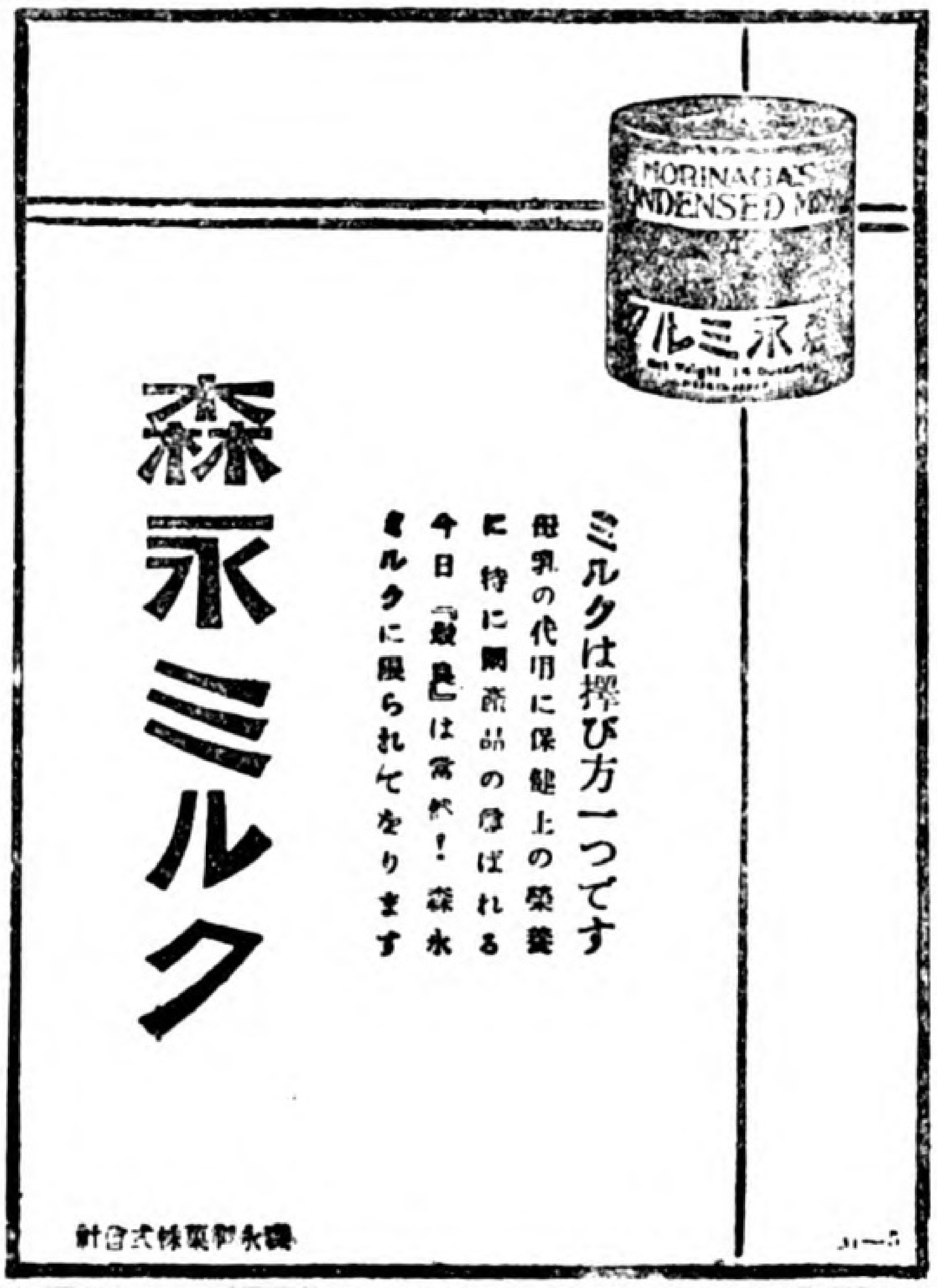
安住かとり線香

本舗 株式會社 安住大藥房

鐘絹

エビス
サッポロビール
アサヒ
清涼飲料
リボン・シトロン
ナポリン
大日本麥酒株式會社

不斷の努力を捧げて
絶えず品質を精選し、價格は低廉に、趣味と實用を標語として、常に社會の趨勢に鑑み、時世に適應して改善に改善を加へつゝ、不斷の努力を續けてをります當店は、店内の諸施設、店員のサービスに於ても萬全を期し、只管華客各位の御滿足と御愉快を以て直ちに當店の喜びと致してをります、何卒御休憩旁々御光來の程偏に御願ひ申し上ます。
地方よりの御註文は通信販賣部宛に願ひます、尚その御手引として御便利なる當店發行の「三越カレンダー」御申越次第御送附申し上ます。
大阪・高麗橋
三越呉服店


MORINAGA'S
CONDENSED MILK
森永ミルク
森永ミルク
ミルクは撰び方一つです
母乳の代用に保健上の榮養に特に國産品の尊ばれる今日「最良」は當然！森永ミルクに限られてをります
森永製菓株式會社

最高の質
最新の味
ユニオンビール

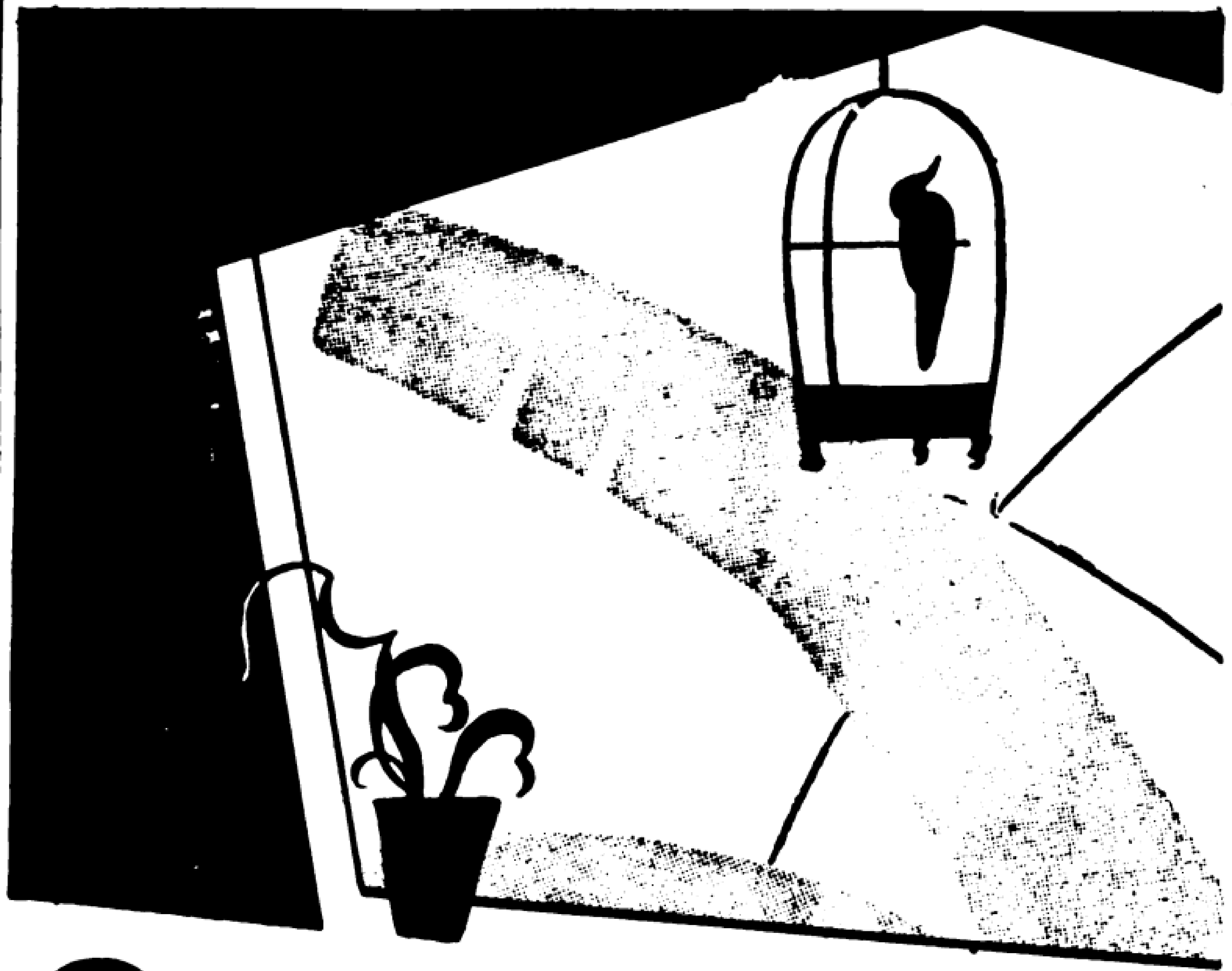
アサヒビール
歡樂の源
愉悅の泉
Asahi Beer

窓硝子
曹達灰
重曹
鹽化石灰
炭酸石灰
炭酸苦土
耐火煉瓦
補助肥料 促肥素

資本金 壹千貳百五拾萬圓
窓硝子年產額 壹百四拾萬凾
曹達灰年產額 壹萬五千噸

旭硝子株式會社

本社……東京市丸之内
工場……尼崎、戸畑、鶴見
出張所……東京、大阪、門司、名古屋、小樽
試驗所……東京



雨上りをゆかたに寛いだ心ブラ黨の眼を惹いてゐる大丸の飾窓には、うすいもの や夏帽、白靴等が飾られて、來ん盛夏を物語つてゐる

夏の……
御用意は只今

月曜休業
夜間營業

大阪心斎橋
大丸呉服店

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可 昭和二年七月一日發行 第五年第七號 定價 一部十錢（税五厘） 半年六十錢 一年一圓（税共） 發行所 東京市外大井町鈴ヶ森海岸一八九0（振替東京六八八三） 進め社本部